

**地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成22年度の業務実績に関する評価結果報告書**

平成23年8月

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
(2) 小項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	
1 医療サービス	20
2 医療の質の向上	34
3 患者サービス	46
4 法令遵守と情報公開	54
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 運営組織	56
2 収支改善	58
3 人事給与	68
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の確立	70
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 新病院に向けた取組み	74
2 福岡市民病院の経営改善の推進	76
〈参考資料〉	
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	89
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	91

はじめに

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の平成22年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、本評価委員会において、平成22年11月10日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委 員 長	尾 形 裕 也	九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座 教授
副委員長	長 柄 均	福岡市医師会 副会長
委 員	津 田 泰 夫	福岡逋信病院 院長
	丸 山 眞紀子	福岡県看護協会 副会長
	吉 水 宏	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

平成22年度の業務実績に関する評価については、4ページ以降に示すように、第1から第4の4つの大項目について、評価A(中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる)と判断した。

この大項目評価等の結果に加え、地方独立行政法人制度の特長を活かし、病院経営に係る一定の権限及び裁量権を院長に委譲することにより、患者及び市民の医療ニーズ等に迅速かつ柔軟に対応するなど、病院現場の実態に即した効率的・効果的な病院経営が行われたことなどから、平成22年度の業務実績は、「全体として中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」とした。

〈判断理由〉

良質な医療の実践として、こども病院・感染症センターにおいては、周産期医療機能を強化したことにより、「地域周産期母子医療センター」として認定を、福岡市民病院については、病病連携・病診連携を積極的に推進した結果、「地域医療支援病院」の指定を、それぞれ平成23年4月に受けており、これまでの取組みが、市立病院として地域医療に貢献していると評価されたものである。

また、平成22年度は、地方独立行政法人化の初年度ではあったものの、自律的な経営が行われ、高度医療の提供による診療単価の上昇や手術件数の増加等による増収を図り、徹底した費用削減の効果と合わせ、運営費負担金繰入後の経常黒字を達成した。

さらに、地方独立行政法人の機能性を生かして、教育支援制度の導入や必要な人材の確保が、迅速・的確に行われている。

一方で、今後とも安定した経営を維持するためには、研修・教育の充実によって、専門集団としての人材育成に取り組むとともに、質の高い医療を安定的かつ継続的に提供できるよう、さらなる経営改善に努める必要がある。

項 目	評価 項目 数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価					大項目評価
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	13	28		9	19			A 計画どおり 進んでいる
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	5	13		8	5			A 計画どおり 進んでいる
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	1	2		2				A 計画どおり 進んでいる
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	1	2		2				A 計画どおり 進んでいる
合 計	20	45		21	24			

全体評価に当たって考慮した内容

〈主な取り組みや特色ある取り組み〉

地域の医療機関との連携強化及び役割分担の下、市立病院としての使命を果たすため、福岡市における医療施策として求められる高度専門医療や救急医療等を提供した。

こども病院・感染症センターについては、小児医療(高度・地域・救急)のさらなる充実を図るとともに、新たに産科を開設し、周産期医療機能を強化したことにより、「地域周産期母子医療センター」として福岡県から認定された。

福岡市民病院については、医療計画における4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の充実に取り組むとともに、SCUを開設し、高度救急医療のさらなる向上を図った。このほか、地域医療連携室の強化を図り、病病連携・病診連携を積極的に推進した結果、「地域医療支援病院」に指定された。

東日本大震災にあたって、物資の提供や医療派遣チームの派遣など、迅速な対応を行った。

病院スタッフの確保と教育・研修については、人材確保が困難な中、年度計画に従って、概ね目標が達成されるとともに、当直明け医師の有給職免制度や育児短時間勤務制度などの導入による処遇改善や教育・研修体制の充実など、積極的に取り組まれている。

〈特筆すべき取り組み〉

収支改善について、患者数は前年度より減少しているが、看護体制の充実や手術件数等の増加等により、入院診療単価の上昇など、大幅な増収を達成している。

さらに、法人本部における経営会議において、月ごとの経営状況を検証するとともに、各病院においても院内幹部による運営委員会等で、細部にわたって経営管理を徹底したことで、効率的・効果的な経営を行うことにより、両病院及び法人全体としても、運営費負担金繰入後の経常黒字を達成している。

評価にあたっての意見、指摘等

患者サービスの面で、医療費のクレジットカードによる支払いは、手数料等のコスト負担を勘案したうえで、是非取り入れていただきたい。また、アンケートの内容及び方法については、両病院の整合性を考慮し、今後見直しを検討していただきたい。

業務運営の改善に関する運営組織において、看護師等の経営参画に当たっては、毎月法人本部で行われる経営会議等に看護部長を出席させるなど、実質的な経営参画の手法について検討をお願いしたい。

「収支改善」や「経営基盤の確立」などの経営管理の徹底の面から診療報酬の改定については、引き上げられる場合もあれば、下がる場合もあるので、収支状況を分析するに当たっては、診療報酬の改定によるものと、法人の経営努力によるもの、それぞれについて把握できるように工夫していただきたい。また、DPCデータも、病院の機能分析などに有効なので、今後の業務運営で是非考えていただきたい。

最後に「新病院に向けた取り組み」については、福岡市側の依頼により、半年以上の中断を余儀なくされたことから、PFIの対象外となる新病院医療関連運営業務に係る調査・分析など、検証の結果に左右されないものについての取り組みが進められていたが、当初平成22年度中に行う予定であった事業について、実績に結びついていないため、平成22年度の評価は行わなかった。事業中断の影響により、開院時期が遅れることとなるが、1日でも早い開院に向け、事業の進捗を図っていただきたい。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

地域医療への貢献と医療連携の推進, 災害時等の対応, 診療体制の強化・充実, 病院スタッフの確保と教育・研修, ボランティアとの共働について, 目標を上回る成果を上げているほか, ほとんどの項目で年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進 んでいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウェイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 医療サービス	5	13		4	9		
2 医療の質の向上	4	8		4	4		
3 患者サービス	3	6		1	5		
4 法令遵守と情報公開	1	1			1		
合 計	13	28		9	19		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院

地域医療連携室の機能強化を図ることにより, 積極的に病病・病診連携の推進に努め, 紹介率, 逆紹介率ともに目標値を上回る成果をあげ, 「地域医療支援病院」として指定されるなど, 計画を大きく上回る成果をあげていることから, 「評価4」とした。なお, 地域医療への貢献に関しては, 公立病院が果たすべき役割として, 地域の医療機関から大きな期待が寄せられており, 今後とも, 病病・病診連携への積極的な取組みは, 大きなウェイトを占めることから, ウェイト「1」を「3」とする。

1-(3) 災害時等の対応

年度計画に従って概ね目標が達成されるとともに, 東日本大震災に当たっては, 物資の提供や医療派遣チームの派遣など迅速な対応を行ったことから, 「評価4」とした。

2-(1) 診療体制の強化・充実 イ 福岡市民病院

年度計画に従って概ね目標が達成されるとともに, 救急診療室の拡張や臓器別センター化

の検討、栄養管理体制の充実を図り、成果を上げていることから、「評価4」とした。

2-(2) 病院スタッフの確保と教育・研修

人材確保が困難な中、年度計画に従って概ね目標が達成されるとともに、当直明け医師の有給職免制度や育児短時間勤務制度などの導入による処遇改善や教育・研修体制の充実など積極的に取り組まれていることから、「評価4」とした。

3-(2) ボランティアとの共働 ア こども病院・感染症センター

積極的にボランティアの協力を得て、院内コンサートを前年度より大幅に増やすなど、院内での過ごしやすい環境作りに取り組んだことから、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

2-(3) 信頼される医療

公立病院として良質な医療を提供することが重要であることから、ウエイト「1」を「2」とする。

3-(1) 患者サービスの向上

病院ごとに異なるアンケートを行っているため、病院ごとに細分化して評価を行った。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・地域医療への貢献と医療連携の推進に関しては、公立病院が果たすべき役割として、地域の医療機関から大きな期待が寄せられており、今後とも、病病・病診連携を積極的に推進していく必要があることから、ウエイトを上げるべきである。
- ・信頼される医療に関しては、公立病院として良質な医療を提供することが重要であることから、ウエイトを上げるべきである。
- ・医療費のクレジットカードによる支払いは、手数料等のコスト負担を勘案したうえで、是非取り入れていただきたい。
- ・アンケートの内容及び方法については、両病院の整合性を考慮し、今後見直しを検討していただきたい。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

看護体制の充実や手術件数の増加等による大幅な増収や、働きやすい環境作りについて、目標を上回る成果を上げているほか、ほとんどの項目で年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進 んでいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエ イト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 運営組織	1	2			2		
2 収支改善	3	9		6	3		
3 人事給与	1	2		2			
合 計	5	13		8	5		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価 2-(1) 増収 患者数は、前年度より減少したものの、看護体制の充実や手術件数の増加等により、入院診療単価の上昇など、大幅な増収を達成することができたことから、「評価4」とした。 3 人事・給与 給与水準の適正化に向けた組合との協議を精力的に行うとともに、職員のモチベーションの維持・向上につながる人事評価制度の創設、自由な雇用形態が選択できる有期職員の配置など、働きやすい環境作りが行われており、「評価4」とした。 ②その他考慮すべき事項 特になし。
--

評価にあたっての意見、指摘等

・看護師等の経営参画に当たっては、毎月法人本部で行われる経営会議等に看護部長を出席させるなど、実質的な経営参画の手法について、検討が必要である。 ・診療報酬の改定については、引き上げられる場合もあれば、下がる場合もあるので、収支状況を分析するに当たっては、診療報酬の改定によるものと、法人の努力によるもの、それぞれについて把握できるよう工夫していただきたい。また、DPCデータも、病院の機能分析などに有効なので、今後の業務運営で是非考えていただきたい。
--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

経営管理の徹底による効率的・効果的な経営を行うことにより、両病院及び法人全体としても、運営費負担金繰入後の経常黒字を達成しており、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進 んでいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウェイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 経営基盤の確立	1	2		2			
合 計	1	2		2			

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

経営基盤の確立

法人本部における「経営会議」において、月ごとの経営状況を検証するとともに、各病院においても院内幹部による運営委員会等において細部にわたって経営管理を徹底したことで、目標を大幅に上回る増収となっていることから、「評価4」とする。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

・診療報酬の改定については、引き上げられる場合もあれば、下がる場合もあるので、収支状況を分析するにあたっては、診療報酬の改定によるものと、法人の努力によるもの、それぞれについて把握できるよう工夫していただきたい。また、DPCデータも、病院の機能分析などに有効なので、今後の業務運営で是非考えていただきたい。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

「1 新病院に向けた取組み」については、福岡市側の依頼により、半年以上の中断を余儀なくされたことから、PFIの対象外となる新病院医療関連運営業務に係る調査・分析など、検証の結果に左右されないものについての取組みが進められていたが、当初平成22年度中に行う予定であった事業については、実績に結びついていないため、評価は行わない。

「2 福岡市民病院の経営改善の推進」については、大幅な増収が図られ、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進 んでいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウェイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 新病院に向けた取組み	—	—					
2 福岡市民病院の経営改善の推進	1	2		2			
合 計	1	2		2			

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

2 福岡市民病院の経営改善の推進

大幅な増収、費用縮減が図れており、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

1 新病院に向けた取組み

福岡市側の依頼により、半年以上の中断を余儀なくされたことから、PFIの対象外となる新病院医療関連運営業務に係る調査・分析など、検証の結果に左右されないものについての取組みが進められていたが、当初平成22年度中に行う予定であった事業については、実績に結びついていないため、平成22年度の評価は行わないこととした。

評価にあたっての意見、指摘等

・事業中断の影響により、開院時期が遅れることとなるが、1日でも早い開院に向け、事業の進捗を図っていただきたい。

(2) 小項目評価 別紙のとおり

(別紙)

地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成22年度の業務実績に関する評価結果

小項目評価

福岡市立病院機構の概要

1 現況（平成22年4月1日現在）

①法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

②本部の所在地

福岡市博多区店屋町4番1号

③役員の状況

（平成22年4月1日現在）

役員	氏名	備考
理事長	福重 淳一郎	福岡市立こども病院・感染症センター院長
副理事長	竹中 賢治	福岡市民病院長
理事	竹嶋 康弘	元福岡県医師会長
	石原 進	福岡経済同友会代表幹事
	高橋 宏和	元福岡市代表監査委員
	河野 斉	福岡市立こども病院・感染症センター副院長
	是永 大輔	福岡市民病院副院長
監事	伊達 健太郎	弁護士
	新原 清治	公認会計士

④運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院・感染症センター	福岡市中央区唐人町2-5-1	一般病床 190床 感染症病床 24床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13-1	一般病床 200床

⑤職員数

（平成22年7月1日現在）

区 分	職員数
合 計	630人
こども病院・感染症センター	346人
福岡市民病院	267人
本部事務局	17人

2 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

1 法人の総括と課題

平成22年度は地方独立行政法人化の初年度であったことから、理事会の設置、組織体制の整備、各種内部規程の制定など、福岡市から独立した法人として自律的な経営を行っていくための基盤整備を行った。

地方独立行政法人制度の特長を最大限に生かし、両病院及び本部事務局が一体となって効率的・効果的な経営に取り組んでいくため、理事長以下7名で構成する理事会を設置し、業務執行の適確性の検証はもとより、厳しく経済性・効率性の追及を行うなど、幅広い専門的な意見を反映しながら法人の経営方針や各種施策の実施について意思決定し、理事会の決定方針に沿った運営を行った。

また、両病院が患者及び市民の医療ニーズ等に迅速かつ柔軟に対応していくためには、経営体としての機動性、弾力性の確保が重要であることから、理事会の決定方針の下、病院経営に係る一定の権限及び裁量権を院長に委譲し、院長がリーダーシップを発揮しやすい環境を整えることで病院現場の実態に即した効率的・効果的な運営を行った。

なお、法人全体の業務の適正及び効率性の検証を行うため、監事（弁護士、公認会計士）による業務監査及び会計監査の実施に加え、内部監査室を設置し、外部の監査法人と連携して業務管理や会計処理等に関する監査を実施するなど、内部統制の整備を行った。

当法人の目標の一つである、提供する医療の質の向上やより一層の患者サービスの充実を達成するためには、それに見合う人員体制を整備する必要があるが、法人移行前は、地方自治法等による職員定数の制約等により、病院現場の実態に関わらず必要な人員を増員することが困難であった。このため、平成22年度に実施すべき重点施策の一つとして、採算性を確保した上での医師、看護師及びその他医療スタッフ等の増員に取り組み、診療体制の強化による質の高い医療の提供や、看護体制の強化による手厚い看護の実施など両病院の機能を強化することによって、年度計画に掲げた取組みを一つひとつ具現化した。

また、財政収支面についても、高度医療の提供による診療単価の上昇や、新規入院患者及び手術件数の増加等による増収を図り、徹底した費用削減の効果と合わせ、経常黒字を達成した。

今後とも安定した経営を維持していくためには、医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な経営戦略を企画・立案していくとともに、マンパワーを最大限に発揮するため、職員の処遇改善や教育・研修の充実等によって職員一人ひとりのモチベーションや専門性の維持・向上を図るなど、専門集団としての人材育成に取り組んでいく必要がある。

市立病院としての役割を果たすため、地域の医療機関との連携強化、治療の効果や安全性を高めるための新薬開発治験への参加のほか、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う被災地への職員派遣も含めた災害発生時における対応強化などの取組みを積極的に推進しており、今後とも、市民に信頼される法人（両病院）として、質の高い医療を安定的かつ継続的に提供できるよう、さらなる経営改善に努めていくこととしている。

2 大項目ごとの特記事項及び各病院の取組状況

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

良質な医療の実践としては、地域の医療機関との連携強化及び役割分担の下、市立病院としての使命を果たすため、福岡市における医療施策として求められる高度専門医療や救急医療等を提供した。

こども病院・感染症センターについては、小児医療の基幹病院として、小児医療（高度・地域・救急）のさらなる充実を図り、他の医療機関からの紹介患者を適切に受け入れるとともに、平成22年8月には新たに産科（4床）を開設し、周産期医療機能を強化することにより、平成23年4月からは地域の産科及び小児科の拠点となる「地域周産期母子医療センター」として福岡県から認定されることとなった。

福岡市民病院については、地域の中核病院として、医療法で定められた医療計画における4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の充実に取り組むとともに、平成22年4月にSCU（脳卒中ケアユニット）6床を開設し、脳卒中センターの機能を強化するなど、高度救急医療のさらなる向上を図った。このほか、他の医療機関との連携による患者紹介率及び逆紹介率の向上やオープンカンファレンスへの参加規模の拡大など、病病連携・病診連携を積極的に推進した結果、平成23年4月からは地域医療体制の中核を担う「地域医療支援病院」として福岡県から指定を受けることとなった。

両病院ともに、医療安全管理者の設置や院内感染管理体制の整備等により、総合的な医療安全管理体制を強化するとともに、患者が安心して治療に臨めるよう、クリニカルパスを活用した事前説明や、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底し、また、患者の希望に応じてセカンド・オピニオンにも適切に対応するなど、信頼される医療の提供に努めた。

さらに、病院機能に対する客観的な評価を得るため、こども病院・感染症センターにおいては、平成23年度の認定更新に向け、財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受審した。（福岡市民病院については、平成21年度に受審し、平成22年度に認定更新済み。）

患者サービスの向上としては、両病院ともに医師を増員して診療体制の強化を図り、質の高い医療を提供するとともに、看護師・助産師についても、両病院にそれぞれ約40人を増員して看護体制の強化を図り、こども病院・感染症センターにおいては、小児入院医療管理料1を、また、福岡市民病院においても7:1看護を導入するなど、患者一人ひとりに、よりきめ細かな看護を提供できるようにした。

また、ドクターカー及び患者用搬送車の導入、服薬指導や栄養食事指導の件数拡大、医療ソーシャルワーカーの増員による医療相談窓口の充実、ホームページ等を活用した専門医療に関する情報発信及び各種広報誌の発行等の取組みも推進し、患者サービスの向上を図った。これら取組みの成果及び課題については、患者アンケートや満足度調査を実施して患者のニーズを的確に把握し、さらなる改善に努めた。

さらに、ボランティアとの共働を推進し、植栽や院内の飾り付け、院内コンサート開催、患児を対象とした工作教室の実施のほか、入院患者の話相手を務めていただくなど、ボランティアからの多種多様な協力を得ながら、入院生活が少しでも快適に過ごせるような環境づくりに努めた。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

新たに設立された「福岡市立病院機構」として自律性・自主性を発揮し、効率的・効果的な経営を行っていくため、医療の専門家や企業経営者等の外部理事を含む理事会を設置し、平成22年度は合計10回の理事会を開催した。理事会においては、法人の経営方針を決定するとともに、適宜、経営管理諸表を用いて経営状況の把握及び年度計画の進捗状況を管理し、業務執行の適確性の検証はもとより、経済性・効率性の追及を徹底した。

また、スピード感を重視した病院経営を可能とするため、理事会の決定方針に基づき、病院経営に関する権限を院長に委譲し、院長のリーダーシップの下、現場の実態に即した効率的・効果的な経営が行えるようにするとともに、院内の組織体制についても、指揮命令系統を明確にし、院長を中心とした上司の指示が全ての職員に徹底され、また、組織横断的な業務に対しても機動的に対応できる組織を構築した。このほか、事務部門についても、民間病院で管理職経験がある者を事務局長及び医事課長として福岡市民病院に配置するとともに、民間病院等の事務経験者等を即戦力として複数採用し、両病院に配置するほか、経営企画課の新設などにより、効果的な経営戦略を企画・立案できる体制を構築した。さらに、看護師等の医療従事者が病院経営により積極的に参画できるよう、平成22年10月に両病院の看護部長を課長級から部長級に昇格させるとともに、看護部長の業務全般を補佐する者として、新たに課長級の副看護部長ポストを設置した。

人事・給与制度に関しては、円滑な法人移行を成し得るため、原則として福岡市の人事制度を踏襲した制度を導入する一方、給与制度については、職員のモチベーションの維持・向上及び人件費の適正化を図るため、「独立行政法人国立病院機構」に準拠した制度を導入した。

また、認定看護師等の資格取得を奨励・支援する制度を構築するとともに、働きながら育児・子育てがしやすい環境づくりを進め、支援が必要な期間は育児短時間勤務制度を活用するほか、看護師の2交代制を試行し、深夜の通勤に対する

職員の負担軽減や安全の確保といった3交代制における課題の解決に向けて検討を進めた。

さらに、職員の業績や能力等が公平かつ客観的に評価され、処遇面に反映される人事評価システムを平成22年度に構築し、平成23年度から医師を対象として導入することとした。

増収及び費用削減の対策としては、両病院ともに看護師を増員し、看護体制を充実させるとともに、こども病院・感染症センターにおいては手術件数の増加、福岡市民病院においては新規入院患者数及び手術件数の増加等によって増収を図り、また、両病院それぞれにおいて診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底やジェネリック医薬品の使用拡大等による費用削減に取り組んだ。

このように、両病院においては徹底した増収対策や費用削減に取り組み、また、法人全体としては、人事管理や給与支給事務など両病院に共通する業務を本部事務局において集約して処理するなど、より効率的な経営に努めた。

結果、両病院ともに平成21年度実績を大幅に上回る医業収益を確保し、費用削減の取組みと併せ、法人全体では、平成22年度の医業収益及び営業費用に関する目標値を達成した。

なお、医業収益に関連する指標のうち、1日当たりの外来患者数については、地域医療機関との役割分担により、まずはかかりつけ医への受診を勧め、手術の施行及び入院治療が必要な患者を積極的に受け入れるなど、病診連携を推進した影響で目標値を達成できなかった。

また、1日当たりの入院患者数及び病床利用率についても、こども病院・感染症センターにおいては産科開設に伴う院内改修工事のため、病棟の一部が使用できなかったことなどの影響、及び福岡市民病院においては高度医療・高度救急医療に特化していく中で、平均在院日数の短縮に取り組んだことによる影響で目標値を達成できなかったが、高度医療の提供及び看護体制の充実に取り組んだことによる診療単価の上昇や新規入院患者数の増などにより、目標値を上回る医業収益を確保した。

今後、これらの政策的な取組みを推進しつつ、さらなる経営努力によって患者数等の拡大を図っていくことが課題である。

【医業収益】

単位：千円

区 分	平成 2 1 年度実績値	平成 2 2 年度実績値 () は22年度目標値	比較増減 () は実績値－目標値
こども病院・感 染症センター	5, 332, 192	5, 752, 068 (5, 457, 476)	419, 876 (294, 592)
福岡市民病院	3, 997, 962	4, 526, 290 (4, 435, 056)	528, 328 (91, 234)
法人全体	9, 330, 154	10, 278, 358 (9, 892, 532)	948, 204 (385, 826)

【営業費用】

単位：千円

区 分	平成 2 1 年度実績値	平成 2 2 年度実績値 () は22年度目標値	比較増減 () は実績値－目標値
こども病院・感 染症センター	5, 536, 719	※ 6, 716, 000 (6, 753, 031)	1, 179, 281 (▲37, 031)
福岡市民病院	4, 438, 905	4, 686, 698 (5, 136, 724)	247, 793 (▲450, 026)
法人全体	9, 975, 624	11, 402, 698 (11, 889, 755)	1, 427, 074 (▲487, 057)

※ こども病院・感染症センターについては、新病院開院後は現病院施設を解体する予定であり、現病院の建物に係る残存価格について期間を圧縮して減価償却する必要があるため、営業費用に減価償却費 7 2 2, 2 6 1 千円を加えて計上している。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

財務内容の改善については、経常黒字が達成できる経営基盤の確立に向け、毎月、法人の経営幹部で構成する「経営会議」を開催し、月次の経営管理諸表を作成して、随時、経営状況の検証を行いながら、課題に応じた適切な改善策を講じるなどの経営管理を徹底した。

また、両病院においても、院内に運営会議や所属長会議等を設置し、年度計画を踏まえた各部署の課題や取組方針等について情報の共有化を図るとともに、各診療科への院長ヒアリング等も実施しながら進捗状況の管理を徹底した。

これらの経営管理を行いながら効率的・効果的な経営に努め、両病院及び法人全体としても経常黒字を達成した。

【経常収支比率】

単位：％

区 分	平成21年度実績	平成22年度実績 ()は22年度目標値	比較増減 ()は実績－目標値
こども病院・感染症センター	100.3	106.5 (102.6)	6.2 (3.9)
福岡市民病院	100.7	112.4 (102.2)	11.7 (10.2)
法人全体	100.5	108.9 (102.4)	8.4 (6.5)

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

福岡市から示された中期目標のうち、法人が達成すべき「その他業務運営に関する重要事項」については、以下のとおり取り組んだ。

(1) 新病院に向けた取組み

こども病院・感染症センターにおける新病院に向けた取組みについては、PFI手法により整備を行う新病院整備等事業を福岡市から承継し、平成22年度は、平成26年3月の開院を目指して、PFI事業者の入札手続きなどを進めてきた。

しかし、新市長の方針により、平成23年1月に「こども病院移転計画調査委員会」が設置され、福岡市からの依頼により、同委員会による検証が行われる期間は、PFIの入札手続きを中断することとなった。

このため、入札手続き中断の間は、主として、PFIの対象外となる新病院の医療関連運営業務に係る調査・分析及び委託を含めた最適な実施方法の検討など、検証の結果に左右されない案件についての取組みを進めた。

(2) 福岡市民病院の経営改善の推進

福岡市民病院においては、地方独立行政法人化を機にさらなる経営改善に取り組み、大幅な増収を達成した結果、医業収支比率は96.6%（前年度90.1%）となり、前年度より6.5ポイント上昇した。

具体的な経営改善の推進については、医師の増員による診療体制の強化や看護師の増員による手厚い看護体制の確保、SCUの新設やCTの更新による診療機能の強化、近隣の医療機関訪問の重点実施による医療連携の推進及び紹介患者数の拡大等に積極的に取り組み、提供する医療の質の向上を図った。平成23年度からは、患者の目線から見た分かりやすい診療体制の構築とチーム医療による良質な医療を提供するため、臓器別にセンター化することとしており、センター化に向けた院内改修工事にも着手した。

また、経営面についても経営企画課の新設や民間病院等からの経験者採用等による事務部門の体制強化、院長ヒアリングの実施や院内会議の充実等による年度計画達成に向けた経営管理の徹底等により、大幅な増収及び費用の抑制を図るなど、院内一丸となって経営改善を推進した。

【医業収支比較】

(単位:百万円)

区 分	平成21年度実績値	平成22年度実績値	比 較
医業収益 a	3,998	4,526	528
営業費用 b	4,439	4,687	248
差引 (a-b)	▲ 441	▲ 161	280
医業収支比率 (a/b)	90.1%	96.6%	6.5ポイント改善

【主な目標値の達成状況】

区 分		こども病院・感染症センター			福岡市民病院		
		22年度 目標値	22年度 実績値	達成率	22年度 目標値	22年度 実績値	達成率
患者動向	病床利用率 (%)	80.5	74.8	93%	92.5	89.8	97%
	1日当たり入院患者数 (人)	153.0	142.2	93%	185.0	179.7	97%
	平均在院日数 (日)	9.9	9.5	104%	15.2	13.5	113%
	新規入院患者数 (人)	5,150	4,951	96%	4,000	4,080	102%
	1人1日当たり入院単価 (円)	84,128	95,347	113%	53,085	54,727	103%
	1日当たり外来患者数 (人)	290.0	275.4	95%	277.0	239.9	87%
	1人1日当たり外来単価 (円)	10,506	11,620	111%	11,517	14,824	129%
医業活動	手術件数 (件)	2,070	2,128	103%	1,880	2,546	135%
	救急搬送件数 (件)	700	763	109%	1,900	2,227	117%
	紹介率 (%)	90.5	86.3	95%	70.7	76.8	109%
	逆紹介率 (%)	17.0	19.9	117%	47.4	50.9	107%
	服薬指導件数 (件)	1,200	855	71%	8,000	8,198	102%
	栄養食事指導件数 (件)	100	246	246%	900	995	111%
	クリカルパス適用率 (%)	72.0	72.6	101%	23.0	28.9	126%
諸 観	退院時アンケート結果 (こども病院)	4.4点	4.4点	100%	—	—	
	患者満足度調査 (市民病院)	—	—		73.0%	70.5%	97%
経営収支	材料費対医業収益比率 (%)	20.8	20.3	102%	25.9	25.8	100%
	薬品費対医業収益比率 (%)	6.5	6.8	96%	9.9	9.5	104%
	診療材料費対医業収益比率 (%)	13.6	12.7	107%	15.8	16.1	98%
	委託料対医業収益比率 (%)	8.0	7.4	108%	12.1	8.2	147%
	ジェネリック医薬品導入率 (%)	6.0	5.6	93%	17.8	20.7	116%
	給与費対医業収益比率 (%)	60.8	59.2	103%	61.0	55.8	109%
	総収支比率 (%)	102.3	106.0	104%	101.9	112.2	110%
	経常収支比率 (%)	102.6	106.5	104%	102.2	112.4	110%
	医業収支比率 (%)	81.6	85.6	105%	87.5	96.6	110%

項目別の状況

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
-----------------	---

中期計画	年度計画
こども病院・感染症センター及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割に応じて医療需要の変化や新たな医療課題に適切に対応するため、次のとおり診療機能の充実に取り組む。 ア こども病院・感染症センター 二次救急病院としての受入れ体制の整備・確保や夜間の小児救急電話相談事業の継続等、小児医療(高度・地域・救急)のさらなる充実を図るとともに、産科を新設し周産期医療に着手する。 第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割については、代替の医療機関が確保されるまでの間は、国(検疫所等)、県及び市と連携し、その役割を果たす。	こども病院・感染症センター及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割に応じて医療需要の変化や新たな医療課題に適切に対応するため、次のとおり診療機能の充実に取り組む。 ア こども病院・感染症センター 放射線技師の増員により宿直対応を実施するなど二次救急指定病院としての受入れ体制の整備を図り、また夜間の小児救急電話相談事業の継続等、小児医療(高度・地域・救急)のさらなる充実を図る。 また、産科については、診察室・病室等の整備、医療機器の購入等を実施し、平成22年度の早い時期に開設する。 第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割については、代替の医療機関が確保されるまでの間は、国(検疫所等)、県及び市と連携し、その役割を継続して果たす。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療施策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。
	ア こども病院・感染症センター 小児医療（高度・地域・救急）のさらなる充実を図るとともに、産科を新設し、周産期医療に取り組むこと。 第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割については、審議会の答申を踏まえ、福岡県へ指定辞退を届け出ているが、代替の医療機関が確保されるまでの間は、その役割を果たすこと。

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア こども病院・感染症センター 放射線技師を増員し、研修が終了した11月から放射線部の宿日直を開始するなど休日・夜間の救急診療体制の充実を図った。 小児救急電話相談事業については、毎日準夜帯(19時～23時)に看護師が交代で、延べ7,357件の相談に対応した。 産科については、産科医、助産師の配置、医療機器の購入、分娩室や病室等の整備を行ったうえで8月2日から診療を開始した。なお、平成23年3月に開催された福岡県周産期医療協議会において「地域周産期母子医療センター」として認定することが承認された。 入院患者数は、産科開設に伴う分娩室等の改修工事のため、病棟の一部が使用できなかったこと、及び小児入院医療管理料1を取得するための施設基準を満たすため、病床利用制限を行ったことなどの影響により減少したが、診療報酬改定や手術件数の増加等による入院診療単価の大幅な上昇により、入院収益は目標値を上回った。 また、外来患者数は、長期投薬への計画的な移行に伴う再来患者数の減等により全体数は減少したが、外来診療単価が上昇したことにより、外来収益についても目標値を上回った。 なお、第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割については、県及び市と連携し、その役割を果たした。	3	3	3	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。 なお、「地域周産期母子医療センター」の認定や小児入院医療管理料1の取得、手術件数の増加など、良質な医療の実践として、高く評価できる。

中期計画

【目標値】

指 標	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値
1日当たり入院患者数（人）	151.8	155.0
平均在院日数（日）	9.9	9.9
1人1日当たり入院単価（円）	79,431	86,697
1日当たり外来患者数（人）	289.5	292.0
1人1日当たり外来単価（円）	10,515	10,455
手術件数（件）	2,041	2,100
救急搬送件数（件）	686	720

【関連指標】

指 標	平成20年度 実績値
心臓血管外科手術件数（件）	437
小児外科手術件数（件）	410
整形外科手術件数（件）	353
心臓カテーテル検査件数（件）	562
新生児科入院患者数（人）	161
新生児循環器科入院患者数（人）	120

年度計画

【目標値】

指 標	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値
1日当たり入院患者数（人）	151.8	153.0
平均在院日数（日）	9.9	9.9
1人1日当たり入院単価（円）	79,431	84,128
1日当たり外来患者数（人）	289.5	290.0
1人1日当たり外来単価（円）	10,515	10,506
手術件数（件）	2,041	2,070
救急搬送件数（件）	686	700

【関連指標】

指 標	平成20年度 実績値
心臓血管外科手術件数（件）	437
小児外科手術件数（件）	410
整形外科手術件数（件）	353
心臓カテーテル検査件数（件）	562
新生児科入院患者数（人）	161
新生児循環器科入院患者数（人）	120

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																																															
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																													
【目標値】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>1日当たり入院患者数（人）</td><td>147.8</td><td>142.2</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>9.6</td><td>9.5</td></tr><tr><td>1人1日当たり入院単価（円）</td><td>84,713</td><td>95,347</td></tr><tr><td>1日当たり外来患者数（人）</td><td>278.8</td><td>275.4</td></tr><tr><td>1人1日当たり外来単価（円）</td><td>10,914</td><td>11,620</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,036</td><td>2,128</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>766</td><td>763</td></tr></table> 【関連指標】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>心臓血管外科手術件数（件）</td><td>443</td><td>432</td></tr><tr><td>小児外科手術件数（件）</td><td>365</td><td>436</td></tr><tr><td>整形外科手術件数（件）</td><td>375</td><td>388</td></tr><tr><td>心臓カテーテル検査件数（件）</td><td>590</td><td>546</td></tr><tr><td>新生児科入院患者数（人）</td><td>149</td><td>194</td></tr><tr><td>新生児循環器科入院患者数（人）</td><td>114</td><td>93</td></tr></table>	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	1日当たり入院患者数（人）	147.8	142.2	平均在院日数（日）	9.6	9.5	1人1日当たり入院単価（円）	84,713	95,347	1日当たり外来患者数（人）	278.8	275.4	1人1日当たり外来単価（円）	10,914	11,620	手術件数（件）	2,036	2,128	救急搬送件数（件）	766	763	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	心臓血管外科手術件数（件）	443	432	小児外科手術件数（件）	365	436	整形外科手術件数（件）	375	388	心臓カテーテル検査件数（件）	590	546	新生児科入院患者数（人）	149	194	新生児循環器科入院患者数（人）	114	93					
	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																																															
	1日当たり入院患者数（人）	147.8	142.2																																															
	平均在院日数（日）	9.6	9.5																																															
	1人1日当たり入院単価（円）	84,713	95,347																																															
	1日当たり外来患者数（人）	278.8	275.4																																															
	1人1日当たり外来単価（円）	10,914	11,620																																															
	手術件数（件）	2,036	2,128																																															
	救急搬送件数（件）	766	763																																															
	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																																															
	心臓血管外科手術件数（件）	443	432																																															
	小児外科手術件数（件）	365	436																																															
	整形外科手術件数（件）	375	388																																															
	心臓カテーテル検査件数（件）	590	546																																															
	新生児科入院患者数（人）	149	194																																															
	新生児循環器科入院患者数（人）	114	93																																															

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
イ 福岡市民病院 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん, 脳卒中, 急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の充実に努めるとともに, 地域特性等により患者の多い肝臓, 腎臓, 脊椎等の疾患にも適切に対応する。また, 脳卒中センターの機能強化や循環器系疾患への対応強化などを進め, 高度救急医療のさらなる向上を図る。	イ 福岡市民病院 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん, 脳卒中, 急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の充実に努めるとともに, 地域特性等により患者の多い肝臓, 腎臓, 脊椎等の疾患にも適切に対応する。また, 脳卒中センターの機能強化や循環器系疾患への対応強化などを進め, 高度救急医療のさらなる向上を図る。 平成22年度は, 脳卒中センターの機能強化を図るため, SCU(脳卒中ケアユニット)を開設する。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療施策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持しつつ、脳卒中センターの充実や循環器系疾患への対応強化などを進め、高度救急医療のさらなる向上を図ること。
-----------------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	
イ 福岡市民病院 4疾病中「がん」については、肝臓癌肝切除が75例と市内トップクラスにあり、また消化器癌切除も203例と順調に件数を増やしている。 「脳卒中」については、SCU(脳卒中ケアユニット)を4月1日に6床開設し、脳卒中センターの機能強化を図った。脳卒中地域連携パスの発行も269例と、市内における連携パス発行総数の約3分の1に達している。 また、「狭心症及び心筋梗塞」に対するPCI(経皮的冠動脈形成術)は139例で順調に伸びており、「糖尿病」対策についても、一般市民向けの糖尿病セミナーを6月に開催するとともに、入院・外来患者向けの糖尿病教室も定期的に開催した。その他、腎透析用シャント関連血管手術409例、脊椎手術258例も市内トップクラスにある。 増加している救急患者に対応するため、平成22年12月に救急診察室を拡張するとともに、平成23年1月には老朽化しつつあったCTを高機能の機器に更新するなど、高度救急医療への対応強化を行った。その結果、救急搬送件数は目標を大きく上回っている。また、紹介患者数の増加(紹介率76.8%)等により、手術総件数は大幅に増加し、入院診療単価も上昇した。 さらに、患者の目線から見た分かりやすい診療体制の構築とチーム医療による良質な医療を提供するために、臓器別のセンター化について検討を行い、平成23年度からのセンター化に向けた院内改修工事を実施した。 当院に求められる医療としての高度医療・高度救急医療に特化していく中で、平均在院日数の短縮に取り組んだため1日当たりの入院患者数については目標を達成できなかったが、救急受入体制や近隣医療機関との連携を強化したことにより、新規入院患者数は目標の4,000人に対し、4,080人と目標を上回った。	3	3	3	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。 なお、高度救急医療への対応強化や手術総件数の大幅増加、臓器別センター化への取り組みなど、良質な医療の実践として、高く評価できる。

中期計画	年度計画																																																																												
【目標値】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th><th>平成24年度 目標値</th></tr><tr><td>1日当たり入院患者数（人）</td><td>184.1</td><td>190.0</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>15.6</td><td>14.0</td></tr><tr><td>1人1日当たり入院単価（円）</td><td>46,320</td><td>56,466</td></tr><tr><td>1日当たり外来患者数（人）</td><td>252.7</td><td>300.0</td></tr><tr><td>1人1日当たり外来単価（円）※</td><td>15,076</td><td>11,481</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>1,842</td><td>2,000</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,689</td><td>2,200</td></tr></table> ※ 平成20年11月から院外処方実施 【関連指標】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th></tr><tr><td>がん退院患者数（人）</td><td>837</td></tr><tr><td>脳卒中退院患者数（人）</td><td>230</td></tr><tr><td>心臓カテーテル検査件数（件）</td><td>366</td></tr><tr><td>糖尿病退院患者数（人）</td><td>704</td></tr><tr><td>肝疾患退院患者数（内科） （人）</td><td>470</td></tr><tr><td>脊椎外科手術件数（件）</td><td>276</td></tr></table>	指 標	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値	1日当たり入院患者数（人）	184.1	190.0	平均在院日数（日）	15.6	14.0	1人1日当たり入院単価（円）	46,320	56,466	1日当たり外来患者数（人）	252.7	300.0	1人1日当たり外来単価（円）※	15,076	11,481	手術件数（件）	1,842	2,000	救急搬送件数（件）	1,689	2,200	指 標	平成20年度 実績値	がん退院患者数（人）	837	脳卒中退院患者数（人）	230	心臓カテーテル検査件数（件）	366	糖尿病退院患者数（人）	704	肝疾患退院患者数（内科） （人）	470	脊椎外科手術件数（件）	276	【目標値】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th><th>平成22年度 目標値</th></tr><tr><td>1日当たり入院患者数（人）</td><td>184.1</td><td>185.0</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>15.6</td><td>15.2</td></tr><tr><td>1人1日当たり入院単価（円）</td><td>46,320</td><td>53,085</td></tr><tr><td>1日当たり外来患者数（人）</td><td>252.7</td><td>277.0</td></tr><tr><td>1人1日当たり外来単価（円）※</td><td>15,076</td><td>11,517</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>1,842</td><td>1,880</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,689</td><td>1,900</td></tr></table> ※ 平成20年11月から院外処方実施 【関連指標】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th></tr><tr><td>がん退院患者数（人）</td><td>837</td></tr><tr><td>脳卒中退院患者数（人）</td><td>230</td></tr><tr><td>心臓カテーテル検査件数（件）</td><td>366</td></tr><tr><td>糖尿病退院患者数（人）</td><td>704</td></tr><tr><td>肝疾患退院患者数（内科） （人）</td><td>470</td></tr><tr><td>脊椎外科手術件数（件）</td><td>276</td></tr></table>	指 標	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値	1日当たり入院患者数（人）	184.1	185.0	平均在院日数（日）	15.6	15.2	1人1日当たり入院単価（円）	46,320	53,085	1日当たり外来患者数（人）	252.7	277.0	1人1日当たり外来単価（円）※	15,076	11,517	手術件数（件）	1,842	1,880	救急搬送件数（件）	1,689	1,900	指 標	平成20年度 実績値	がん退院患者数（人）	837	脳卒中退院患者数（人）	230	心臓カテーテル検査件数（件）	366	糖尿病退院患者数（人）	704	肝疾患退院患者数（内科） （人）	470	脊椎外科手術件数（件）	276
指 標	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値																																																																											
1日当たり入院患者数（人）	184.1	190.0																																																																											
平均在院日数（日）	15.6	14.0																																																																											
1人1日当たり入院単価（円）	46,320	56,466																																																																											
1日当たり外来患者数（人）	252.7	300.0																																																																											
1人1日当たり外来単価（円）※	15,076	11,481																																																																											
手術件数（件）	1,842	2,000																																																																											
救急搬送件数（件）	1,689	2,200																																																																											
指 標	平成20年度 実績値																																																																												
がん退院患者数（人）	837																																																																												
脳卒中退院患者数（人）	230																																																																												
心臓カテーテル検査件数（件）	366																																																																												
糖尿病退院患者数（人）	704																																																																												
肝疾患退院患者数（内科） （人）	470																																																																												
脊椎外科手術件数（件）	276																																																																												
指 標	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値																																																																											
1日当たり入院患者数（人）	184.1	185.0																																																																											
平均在院日数（日）	15.6	15.2																																																																											
1人1日当たり入院単価（円）	46,320	53,085																																																																											
1日当たり外来患者数（人）	252.7	277.0																																																																											
1人1日当たり外来単価（円）※	15,076	11,517																																																																											
手術件数（件）	1,842	1,880																																																																											
救急搬送件数（件）	1,689	1,900																																																																											
指 標	平成20年度 実績値																																																																												
がん退院患者数（人）	837																																																																												
脳卒中退院患者数（人）	230																																																																												
心臓カテーテル検査件数（件）	366																																																																												
糖尿病退院患者数（人）	704																																																																												
肝疾患退院患者数（内科） （人）	470																																																																												
脊椎外科手術件数（件）	276																																																																												

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																																															
	ウ エ イ ト	評 価	ウ エ イ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																													
また、1日当たりの外来患者数についても、地域医療支援機能としての病診連携を重視したため目標を達成できなかったが、外来診療単価の上昇により外来収益は増加し目標値を上回った。 今後、臓器別のセンター化等によるさらなる機能強化を図り、全ての指標における目標達成に努めていく。 【目標値】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>1日当たり入院患者数（人）</td><td>183.1</td><td>179.7</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>15.1</td><td>13.5</td></tr><tr><td>1人1日当たり入院単価（円）</td><td>46,696</td><td>54,727</td></tr><tr><td>1日当たり外来患者数（人）</td><td>263.6</td><td>239.9</td></tr><tr><td>1人1日当たり外来単価（円）</td><td>12,469</td><td>14,824</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>1,869</td><td>2,546</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,931</td><td>2,227</td></tr></table> 【関連指標】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>がん退院患者数（人）</td><td>792</td><td>750</td></tr><tr><td>脳卒中退院患者数（人）</td><td>288</td><td>372</td></tr><tr><td>心臓カテーテル検査件数（件）</td><td>368</td><td>361</td></tr><tr><td>糖尿病退院患者数（人）</td><td>832</td><td>865</td></tr><tr><td>肝疾患退院患者数（内科）（人）</td><td>373</td><td>422</td></tr><tr><td>脊椎外科手術件数（件）</td><td>266</td><td>258</td></tr></table>	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	1日当たり入院患者数（人）	183.1	179.7	平均在院日数（日）	15.1	13.5	1人1日当たり入院単価（円）	46,696	54,727	1日当たり外来患者数（人）	263.6	239.9	1人1日当たり外来単価（円）	12,469	14,824	手術件数（件）	1,869	2,546	救急搬送件数（件）	1,931	2,227	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	がん退院患者数（人）	792	750	脳卒中退院患者数（人）	288	372	心臓カテーテル検査件数（件）	368	361	糖尿病退院患者数（人）	832	865	肝疾患退院患者数（内科）（人）	373	422	脊椎外科手術件数（件）	266	258					
指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																																																
1日当たり入院患者数（人）	183.1	179.7																																																
平均在院日数（日）	15.1	13.5																																																
1人1日当たり入院単価（円）	46,696	54,727																																																
1日当たり外来患者数（人）	263.6	239.9																																																
1人1日当たり外来単価（円）	12,469	14,824																																																
手術件数（件）	1,869	2,546																																																
救急搬送件数（件）	1,931	2,227																																																
指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																																																
がん退院患者数（人）	792	750																																																
脳卒中退院患者数（人）	288	372																																																
心臓カテーテル検査件数（件）	368	361																																																
糖尿病退院患者数（人）	832	865																																																
肝疾患退院患者数（内科）（人）	373	422																																																
脊椎外科手術件数（件）	266	258																																																

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
	1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進

中期計画		年度計画																																																			
市立病院として、地域医療に貢献するため、オープンカンファレンスの実施等、地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 こども病院・感染症センターにおいては、開放型病床への登録医拡大やドクターカー導入等、地域医療支援病院としての機能充実を図る。		ア こども病院・感染症センター 小児医療の基幹病院として、重症度に応じて救急・時間外患者に適切に対応し、症状の安定した患者については積極的に地域の医療機関への逆紹介を行うなど、紹介率・逆紹介率をより一層高め、地域の医療機関との連携をさらに強化する。 開放型病床及びオープンカンファレンスについては、産科開設に伴い地域の診療所への広報等を行うなど、一層の利用促進に取り組む。 さらに、平成22年度よりドクターカーの運用を開始する。																																																			
【目標値】		【目標値】																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・感染症センター</th></tr> <tr> <th>平成20年度 実績値</th><th>平成24年度 目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">紹介率 (%)</td><td>90.0</td><td>91.0</td></tr> <tr> <td colspan="2">逆紹介率 (%)</td><td>15.3</td><td>20.0</td></tr> <tr> <td rowspan="2">オープンカンファレンス</td><td>回数 (回)</td><td>28</td><td>30</td></tr> <tr> <td>参加者数 (人)</td><td>278</td><td>360</td></tr> <tr> <td colspan="2">開放型病床への登録医数 (人)</td><td>51</td><td>65</td></tr> </tbody> </table>		指 標		こども病院・感染症センター		平成20年度 実績値	平成24年度 目標値	紹介率 (%)		90.0	91.0	逆紹介率 (%)		15.3	20.0	オープンカンファレンス	回数 (回)	28	30	参加者数 (人)	278	360	開放型病床への登録医数 (人)		51	65	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・感染症センター</th></tr> <tr> <th>平成20年度 実績値</th><th>平成22年度 目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">紹介率 (%)</td><td>90.0</td><td>90.5</td></tr> <tr> <td colspan="2">逆紹介率 (%)</td><td>15.3</td><td>17.0</td></tr> <tr> <td rowspan="2">オープンカンファレンス</td><td>回数 (回)</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr> <td>参加者数 (人)</td><td>278</td><td>320</td></tr> <tr> <td colspan="2">開放型病床への登録医数 (人)</td><td>51</td><td>55</td></tr> </tbody> </table>		指 標		こども病院・感染症センター		平成20年度 実績値	平成22年度 目標値	紹介率 (%)		90.0	90.5	逆紹介率 (%)		15.3	17.0	オープンカンファレンス	回数 (回)	28	29	参加者数 (人)	278	320	開放型病床への登録医数 (人)		51	55
指 標				こども病院・感染症センター																																																	
		平成20年度 実績値	平成24年度 目標値																																																		
紹介率 (%)		90.0	91.0																																																		
逆紹介率 (%)		15.3	20.0																																																		
オープンカンファレンス	回数 (回)	28	30																																																		
	参加者数 (人)	278	360																																																		
開放型病床への登録医数 (人)		51	65																																																		
指 標		こども病院・感染症センター																																																			
		平成20年度 実績値	平成22年度 目標値																																																		
紹介率 (%)		90.0	90.5																																																		
逆紹介率 (%)		15.3	17.0																																																		
オープンカンファレンス	回数 (回)	28	29																																																		
	参加者数 (人)	278	320																																																		
開放型病床への登録医数 (人)		51	55																																																		

中期目標(内容)	市立病院として、地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																											
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																									
ア こども病院・感染症センター 他の医療機関からの患者紹介率については、目標値に届かなかったものの、小児医療の基幹病院として適切に紹介患者の受入れを行っており、当院での専門的な治療を行った後、症状が安定した患者については積極的に地域の医療機関へ逆紹介し、逆紹介率の向上を図るなど、病病・病診連携を積極的に推進した。 また、オープンカンファレンスについては、こども病院カンファレンスを始め、症例検討会等を定期的に開催するなど参加者数の拡大に努め、参加者数については目標を大きく上回り、1回当たりの平均参加者も前年度より増加するなど、地域医療支援病院としての役割を果たした。 ドクターカーについては、4月から主に転院等の患者搬送車として仮運用を開始し、医療器材の取付けなどを行った後、8月からの産科開設と同時に正式な運用を開始した。 【目標値】 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・感染症センター</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td colspan="2">紹介率（％）</td><td>90.2</td><td>86.3</td></tr><tr><td colspan="2">逆紹介率（％）</td><td>16.1</td><td>19.9</td></tr><tr><td rowspan="2">オープンカン ファレンス</td><td>回数（回）</td><td>36</td><td>27</td></tr><tr><td>参加者数 （人）</td><td>1,043</td><td>907</td></tr><tr><td colspan="2">開放型病床への登録医 数（人）</td><td>55</td><td>55</td></tr></table>	指 標		こども病院・感染症センター		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	紹介率（％）		90.2	86.3	逆紹介率（％）		16.1	19.9	オープンカン ファレンス	回数（回）	36	27	参加者数 （人）	1,043	907	開放型病床への登録医 数（人）		55	55	1	3	3	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。 なお、地域医療への貢献に関しては、公立病院が果たすべき役割として、地域の医療機関から大きな期待が寄せられており、今後とも、病病・病診連携への積極的な取り組みは、大きなウエイトを占めることから、ウエイトを「3」に修正する。
指 標			こども病院・感染症センター																											
		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																											
紹介率（％）		90.2	86.3																											
逆紹介率（％）		16.1	19.9																											
オープンカン ファレンス	回数（回）	36	27																											
	参加者数 （人）	1,043	907																											
開放型病床への登録医 数（人）		55	55																											

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
----------	---

中期計画	年度計画
市立病院として、地域医療に貢献するため、オープンカンファレンスの実施等、地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 福岡市民病院においては、地域医療支援病院の指定に向けた取組を推進する。	イ 福岡市民病院 地域医療連携室の専門スタッフの増員を含め、機能を強化・拡大し、地域医療支援病院の指定に向けた取組を推進する。その一環として、東部オープンカンファレンスや地域連携パス等、近隣の医療機関との連携を図り、紹介率、逆紹介率の着実なアップに努める。

【目標値】

指 標		福岡市民病院	
		平成20年度 実績値	平成24年度 目標値
紹介率 (%)		68.6	75.0
逆紹介率 (%)		41.2	60.0
オープンカンファレンス	回数 (回)	27	30
	参加者数 (人)	397	450
開放型病床への登録医数 (人)		58	100

【目標値】

指 標		福岡市民病院	
		平成20年度 実績値	平成22年度 目標値
紹介率 (%)		68.6	70.7
逆紹介率 (%)		41.2	47.4
オープンカンファレンス	回数 (回)	27	28
	参加者数 (人)	397	420
開放型病床への登録医数 (人)		58	70

中期目標(内容)	市立病院として、地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																											
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																									
イ 福岡市民病院 医療ソーシャルワーカー及び事務職員を各1名増員し、地域医療連携室の機能強化を図るとともに、積極的に近隣の医療機関訪問を実施し、病病・病診連携の推進に努めた。これらの取組みの結果、紹介率、逆紹介率ともに目標値を上回った。 オープンカンファレンスについては、メインとなる東部オープンカンファレンスを計画通り4回開催したほか、福岡脳神経疾患研究会、福岡市民病院脳卒中連絡会、福岡市民病院頸部大腿骨骨折連絡会、消化管病理検討会など多岐に亘って勉強会を開催した。回数では目標値を下回ったものの、東部オープンカンファレンスが大変好評なこともあり、参加者数については目標を大きく上回った。 「地域医療支援病院」としての指定については、平成22年12月に指定申請書を福岡県に提出し、平成23年3月に開催された福岡県医療審議会において承認された。その取組みの過程で、地域の医療機関等との連携強化を図るため、平成23年1月に患者用搬送車を導入するとともに、開放型病床への登録医数の拡大に取り組み、目標値を大きく上回る登録医を確保した。 【目標値】 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td colspan="2">紹介率（%）</td><td>63.3</td><td>76.8</td></tr><tr><td colspan="2">逆紹介率（%）</td><td>45.9</td><td>50.9</td></tr><tr><td rowspan="2">オープンカンファレンス</td><td>回数（回）</td><td>27</td><td>23</td></tr><tr><td>参加者数（人）</td><td>678</td><td>727</td></tr><tr><td colspan="2">開放型病床への登録医数（人）</td><td>36</td><td>101</td></tr></table>	指 標		福岡市民病院		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	紹介率（%）		63.3	76.8	逆紹介率（%）		45.9	50.9	オープンカンファレンス	回数（回）	27	23	参加者数（人）	678	727	開放型病床への登録医数（人）		36	101	1	4	3	4	地域医療連携室の機能強化を図ることにより、積極的に病病・病診連携の推進に努め、紹介率、逆紹介率ともに目標値を上回る成果をあげ、「地域医療支援病院」として指定されるなど、計画を大きく上回る成果をあげていることから、「評価4」が妥当である。 なお、地域医療への貢献に関しては、公立病院が果たすべき役割として、地域の医療機関から大きな期待が寄せられており、今後とも、病病・病診連携への積極的な取組みは、大きなウエイトを占めることから、ウエイトを「3」に修正する。
指 標			福岡市民病院																											
		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																											
紹介率（%）		63.3	76.8																											
逆紹介率（%）		45.9	50.9																											
オープンカンファレンス	回数（回）	27	23																											
	参加者数（人）	678	727																											
開放型病床への登録医数（人）		36	101																											

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (3) 災害時等の対応
-----------------	--

中期計画	年度計画
災害発生時やその他の緊急時で市長の求めがあった場合等において、福岡市地域防災計画、各種疾患の対策行動計画等に基づき、適切に対応する。 また、災害発生時等に万全な対応を図ることができるように院内防災マニュアルの整備や防災訓練を行うとともに、必要物品等の確保に努める。	災害発生時やその他の緊急時で市長の求めがあった場合等において、福岡市地域防災計画、各種疾患の対策行動計画等に基づき、適切に対応する。 また、災害発生時等に万全な対応を図ることができるように院内防災マニュアルの整備や消防署との連携による消防・防災訓練を行うとともに、備蓄物品等の必要物品等の確保に努める。

中期目標(内容)	災害発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種疾患の対策行動計画等に基づき、適切に対応すること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
災害発生時には、福岡市地域防災計画等に基づき、常に適切な対応が行えるよう体制を整備するとともに、予備電源用自家発電設備の定期点検の実施など、災害発生時の対応準備に万全を期した。 また、院内の防災マニュアル等も随時見直しを行い、防災訓練についても火災発生に備えた避難誘導訓練や消火器操作訓練などを定期的実施した。 備蓄物品等の必要物品については在庫確認を行い、いつでも使用できる状態で常備している。 新型インフルエンザなどの発生に備えた対応マニュアルも必要に応じて随時改定を行っており、こども病院・感染症センターにおける感染症病床に加え、福岡市民病院においても陰圧機能を有した感染患者受入病室を1室整備した。 平成23年3月に発生した東日本大震災においては、被災地への飲料水やミルク等の提供のほか、市長の求めに応じ、福岡市の医療派遣チームの要員として両病院から診療放射線技師を派遣した。 なお、両病院ともに地震発生当初より被災地への職員派遣等の準備を整え、こども病院・感染症センターにおいては、地方独立行政法人宮城県立こども病院と連絡を取り合い、職員の派遣や患者の受入れについて支援が可能であることを、また、福岡市民病院においては、日本医師会と連携し、要請があれば直ちに医療班1班(医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務職1名)を派遣する旨の申し入れを行った。 〈参考〉 H23.4.18～4.22 福岡市民病院の医師等5名を被災地に派遣	1	4	1	4	年度計画に従って概ね目標が達成されるとともに、東日本大震災に当たっては、物資の提供や医療派遣チームの派遣など迅速な対応を行ったことから、「評価4」が妥当である。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 医療の質の向上 (1) 診療体制の強化・充実
----------	--

中期計画	年度計画
医療のさらなる高度専門化に対応し、より安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、医療安全などのチーム医療体制を充実させるとともに、各病院において次のとおり体制整備や取組みの実施を行い、診療体制の強化・充実を図る。 ア コども病院・感染症センター (ア) 産科開設による周産期医療への着手 (イ) 看護師の増員による夜間看護体制の充実 (ウ) 麻酔科医の増員によるより安全・安定的な手術体制の構築 (エ) 放射線技師の増員による当直体制の実施	医療のさらなる高度専門化に対応し、より安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、医療安全などのチーム医療体制を充実させるとともに、各病院において次のとおり体制整備や取組みの実施を行い、診療体制の強化・充実を図る。 ア コども病院・感染症センター (ア) 産科を開設する。 (イ) 看護師の増員により夜間看護体制を充実させる。 (ウ) 麻酔科医を増員し、より安全で安定的な手術体制を構築する。 (エ) 放射線技師の増員により宿直対応を実施し、夜間救急診療を充実させる。

中期目標(内容)	医療のさらなる高度専門化に対応し、より安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、必要に応じて診療科の再編やセンター化を行うとともに、各専門領域の医療スタッフが連携して診療に取り組むチーム医療体制を充実させるなど、診療体制の強化・充実を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア こども病院・感染症センター (ア) 産科については、産科医、助産師の配置、医療機器の購入、分娩室や病室等の整備を行ったうえで8月2日から診療を開始した。 なお、平成23年3月に開催された福岡県周産期医療協議会において「地域周産期母子医療センター」として認定することが承認された。 (イ) 看護師を44名増員し、夜間看護体制の充実を図った。 対象病棟に夜間9:1の看護配置による小児入院医療管理料1を適用するなど、よりきめ細かな看護を実施した。 (ウ) 麻酔科医については、平成22度中の増員は実現しなかったが、大学医局等と精力的に協議を行った結果、平成23年度当初から1名増員することが決定した。 (エ) 放射線技師を1名増員し、研修が終了した11月から宿日直を実施し、休日・夜間の救急診療を充実させた。	2	3	2	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 医療の質の向上 (1) 診療体制の強化・充実
----------	--

中期計画	年度計画
医療のさらなる高度専門化に対応し、より安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、医療安全などのチーム医療体制を充実させるとともに、各病院において次のとおり体制整備や取組みの実施を行い、診療体制の強化・充実を図る。 イ 福岡市民病院 (ア) 医師の増員による診療体制の強化 (イ) 看護師の増員による7対1看護体制の導入 (ウ) 脳卒中センターの機能強化(ＳＣＵの設置) (エ) がん治療における外来化学療法の実施(在宅治療の導入)	医療のさらなる高度専門化に対応し、より安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、医療安全などのチーム医療体制を充実させるとともに、各病院において次のとおり体制整備や取組みの実施を行い、診療体制の強化・充実を図る。 イ 福岡市民病院 (ア) 医師の増員により診療体制を強化する。 (イ) 看護師の増員により7対1看護体制を導入する。 (ウ) ＳＣＵを設置し、脳卒中センターの機能強化を図る。 (エ) 医療安全管理室を新設する。 (オ) 臨床工学室の機能強化・充実を図る。 (カ) 診療情報管理体制を強化する。 (キ) がん治療における外来化学療法を充実させる。(在宅治療の導入) (ク) ＣＴを更新し、画像診断機能を強化・充実させる。

中期目標(内容)	医療のさらなる高度専門化に対応し、より安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、必要に応じて診療科の再編やセンター化を行うとともに、各専門領域の医療スタッフが連携して診療に取り組むチーム医療体制を充実させるなど、診療体制の強化・充実を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 (ア)の医師の増員については、増員計画12名に対し6名の増員にとどまっている。これは大学医局の派遣人員不足の影響もあるが、院内での自己分析による配置計画の見直しを行った結果でもあり、熟練医師を多く配置することによって医療のレベルアップを図り、当院に求められる医療を提供するために必要な体制は確保している。 (イ)の看護師の増員による7:1看護体制の導入、(ウ)のSCUの設置による脳卒中センターの機能強化及び(エ)の医療安全管理室の新設については、計画どおり4月1日から導入、開設しており、また、(オ)の臨床工学室の機能や、(カ)の診療情報の管理体制についても、臨床工学技士3名の正職員化や診療情報管理士の採用(正規1名、有期1名)によって強化・充実を図った。 (キ)のがん治療における外来化学療法については、1月当たりの平均患者数が55.2人(1日当たり2.7人)と順調に推移している。 また、増加している救急患者に対応するため、平成22年12月に救急診療室を拡張するとともに、平成23年1月には、(ク)のCT更新によって機能アップを図り、高度救急医療への対応を強化した。 さらに、患者の目線から見た分かりやすい診療体制の構築とチーム医療による良質な医療を提供するために、臓器別のセンター化について検討を行い、平成23年度からのセンター化に向けた院内改修工事を実施した。 また、管理栄養士などの関係職員に必要な研修を受講させた上で、栄養サポートチーム加算の施設基準を平成23年2月に取得し、栄養管理体制の充実を図り、チーム医療体制の充実に向けた取組を推進した。	2	4	2	4	年度計画に従って概ね目標が達成されるとともに、救急診療室の拡張や臓器別センター化の検討、栄養管理体制の充実を図り、成果を上げていることから、「評価4」が妥当である。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 医療の質の向上 (2) 病院スタッフの確保と教育・研修
----------	---

中期計画	年度計画																						
ア 医師 医療水準を向上させるため、処遇や福利厚生 の改善、育児・子育て支援等の働きやすい環境 づくりを行うなど、優れた医師の確保に努め る。 また、研修医の受入体制を整えるとともに、 専門医研修施設として教育・研修体制の充実等 に取り組む。 イ 看護師 2交代制や短時間勤務など柔軟で多様な勤務 体系を検討するなど、働きやすい環境づくりを 進め、看護体制の充実に必要な人員の確保に努 める。 また、専門看護師や認定看護師等の資格取得 を奨励・支援する体制を整えるなど、教育・研 修システムを整備する。	ア 医師 優れた医師を確保し、医療水準を向上させる ため、処遇や福利厚生 の改善を行い、育児・子 育て支援等の働きやすい環境づくりについても 検討する。 また、研修医の受入体制を整えるとともに、 専門医研修施設として教育・研修体制の充実等 に取り組む。 イ 看護師 看護体制の充実に必要な人員の確保を図るた め、2交代制や短時間勤務など柔軟で多様な勤 務体系の導入を検討する。 教育担当者を配置し、新人教育を充実させる など教育・研修システムの整備を図る。 また、専門看護師や認定看護師等の資格取得 を奨励・支援する体制を構築する。																						
【関連指標】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th>こども病院・ 感染症センター</th><th>福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成20年度 実績値</th><th>平成20年度 実績値</th></tr><tr><td>看護実習 受入施設数 (施設)</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>常勤看護師 離職率 (%)</td><td>5.5</td><td>8.6</td></tr></table>	指 標	こども病院・ 感染症センター	福岡市民病院	平成20年度 実績値	平成20年度 実績値	看護実習 受入施設数 (施設)	5	3	常勤看護師 離職率 (%)	5.5	8.6	【関連指標】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th>こども病院・ 感染症センター</th><th>福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成20年度 実績値</th><th>平成20年度 実績値</th></tr><tr><td>看護実習 受入施設数 (施設)</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>常勤看護師 離職率 (%)</td><td>5.5</td><td>8.6</td></tr></table>	指 標	こども病院・ 感染症センター	福岡市民病院	平成20年度 実績値	平成20年度 実績値	看護実習 受入施設数 (施設)	5	3	常勤看護師 離職率 (%)	5.5	8.6
指 標		こども病院・ 感染症センター	福岡市民病院																				
	平成20年度 実績値	平成20年度 実績値																					
看護実習 受入施設数 (施設)	5	3																					
常勤看護師 離職率 (%)	5.5	8.6																					
指 標	こども病院・ 感染症センター	福岡市民病院																					
	平成20年度 実績値	平成20年度 実績値																					
看護実習 受入施設数 (施設)	5	3																					
常勤看護師 離職率 (%)	5.5	8.6																					

中期目標(内容)	ア 医師	医療水準を向上させるため、優れた医師の確保に努めるとともに、教育・研修体制の充実等を図ること。
	イ 看護師	働きやすい環境づくりを進め、看護体制の充実に必要な人員の確保を図ること。 また、専門性向上のための資格取得等を奨励・支援する体制を整えるなど、教育・研修システムを整備すること。
	ウ その他医療技術職	適正な人員配置や部門間の連携強化に取り組むとともに、研修体制を充実させ、専門性や医療技術の向上を図ること。
	エ 事務職	計画的にプロパー職員の採用及び育成を行い、診療報酬改定等の医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な経営戦略を企画・立案できる事務部門を構築すること。

評価の半断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の半断理由・ 評価のコメントなど
ア 医師 優れた医師の確保に向け、年俸制を導入するとともに、医師の事務的作業の負担軽減を図るための医師事務作業補助者の増員や当直明け医師に対する有給職免制度を新設するなどの処遇改善を行った。 また、働きながら育児・子育てがしやすい環境づくりを進め、支援が必要な期間については、育児短時間勤務制度を活用した。 研修医の受入体制については、専門医や指導医等の資格を有する医師の拡大を図るとともに、研修担当の医師が中心となって教育・研修体制の充実に取り組んだ。	2	4	2	4	人材確保が困難な中、年度計画に従って概ね目標が達成されるとともに、当直明け医師の有給職免制度や育児短時間勤務制度などの導入による処遇改善や教育・研修体制の充実など積極的に取り組まれていることから、「評価4」が妥当である。
イ 看護師 従来から3交代制の看護体制を採用しているところであるが、深夜の通勤に対する職員の負担軽減や安全を確保するため、両病院の一部病棟で2交代制の試行を実施しており、本格実施に向けた検証を進めている。 また、課長級の副看護部長ポストの新設や専従の教育担当の配置等により、新人教育及び看護師の教育・研修を充実させた。 さらに、認定看護師等の資格取得を奨励・支援するため、必要な教育課程を受講する際の費用助成等を制度化した。					

【関連指標】

指標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院	
	平成21年 度実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値
看護実習受 入施設数 (施設)	5	5	3	3
常勤看護師 離職率(%)	10.4	8.9	22.4	15.4

中期計画	年度計画
ウ その他医療技術職 適正な人員配置や部門間の連携強化に取り組むとともに、専門研修への参加機会の拡充、専門性向上のための資格取得等の奨励・支援体制の整備等、教育・研修体制を充実させ、専門性や医療技術の向上を図る。 エ 事務職 診療報酬改定等の医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な経営戦略を企画・立案できる事務部門を構築するため、専門的知識・経験を有する者等をプロパー職員として計画的に採用するとともに、その育成に取り組む。	ウ その他医療技術職 適正な人員配置や部門間の連携強化に取り組むとともに、専門研修への参加機会の拡充、専門性向上のための資格取得等の奨励・支援体制の整備を検討するなど、教育・研修体制を充実させ、専門性や医療技術の向上を図る。 エ 事務職 医療を取り巻く状況に即応した経営体制を整備するため、診療報酬に関する知識を有する者等をプロパー職員として採用するとともに、その育成に取り組む。 また、診療情報システム等の各種データをさらに有効に活用し、経営改善に資するための分析や、改善案の企画立案を行うために、平成22年度に経営企画部門を強化する。

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウ エ イ ト	評 価	ウ エ イ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ウ その他医療技術職 適正な人員配置を行うことによって病院全体の機能強化を図るため、放射線技師や薬剤師など各部門の専門職を増員した。 また、新人の医療ソーシャルワーカーを対象とした専門研修や、がんリハビリテーション研修等の院外研修会に積極的に参加させるとともに、院内研修を充実させ、職員の資質向上に努めた。 エ 事務職 病院事務に関する専門的知識や病院勤務経験のある者をプロパー職員として採用し、即戦力として活用した。 また、DPCデータの分析や経営改善に向けた企画立案を行う部門として経営企画課を新設するなど、経営企画部門の強化を図った。					

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 医療の質の向上 (3) 信頼される医療
中期計画	年度計画
市民に信頼される良質な医療を提供するため、薬剤師による服薬指導や管理栄養士による栄養食事指導を充実させるとともに、院内感染防止対策の確実な実施や医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図る。 さらに、新たに医療安全管理者及び院内感染管理者を設置し、総合的な医療安全管理体制を強化する。 また、クリニカルパスを活用した事前説明の徹底や、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得のうえで自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントの徹底を図るとともに、患者の希望に応じ、セカンド・オピニオンへ適切に対応する。 さらに、高度医療を担う病院として、新薬の開発等に貢献し、治療の効果や安全性を高めるため、積極的に新薬の開発治験に参加する。 また、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を継続受審し、客観的な評価を踏まえて、改善すべき課題を改めて明確化するとともに、改善に向けた具体的な目標を設定し、その達成に向けて病院全体で取り組む。	市民に信頼される良質な医療を提供するため、薬剤師による服薬指導や管理栄養士による栄養食事指導を充実させるとともに、院内感染防止対策の確実な実施や医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図る。 さらに、新たに医療安全管理者及び院内感染管理者を設置し、総合的な医療安全管理体制を強化する。 また、クリニカルパスを活用した事前説明の徹底や、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得のうえで自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントの徹底を図るとともに、患者の希望に応じ、セカンド・オピニオンへ適切に対応する。 さらに、高度医療を担う病院として、新薬の開発等に貢献し、治療の効果や安全性を高めるため、積極的に新薬の開発治験に参加する。 こども病院・感染症センターにおいては、病院機能の客観的な評価を踏まえた課題の明確化と改善への取組みを実施するため、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の平成23年度更新に向け、病院内の体制を検討する。(福岡市民病院については、平成21年度に受審済)

中期目標(内容)	市民に信頼される良質な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得のうえで自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底すること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	
市民に信頼される良質な医療を提供するため、両病院において以下の取組みを行った。 ア こども病院・感染症センター 服薬指導については、薬剤師を2名増員し、服薬指導件数の拡大に努めた。上半期は対応職員の研修期間に充てたため実績が伸びなかったが、下半期は着実に実績を伸ばし、順調に推移した結果、目標値には届かなかったものの、前年度からは大幅に好転した。 また、栄養食事指導については、管理栄養士が中心となって主治医、病棟看護師との連携を図り、入退院時や外来診察時等の機会を利用して食事療法に関する理解を深め治療効果が上がるよう、また、家庭での食事療法の実践が円滑に行くよう積極的に指導を行い、目標件数の2倍以上の実績をあげた。 医療安全管理体制については、専従の医療安全管理者を配置するとともに、院内感染管理体制の整備、院内要綱の改正等により強化を図った。 クリニカルパス検討委員会を設置し、クリニカルパスの作成、評価の手法などを確立し、適用率の向上に努め、目標値を達成した。セカンド・オピニオンへの対応についても、規程の改正やマニュアルを作成し、平成23年3月から受入れを開始した。 また、治験・製造販売後臨床試験への積極的な参加を促すため、治験収益の取扱方針や手続きを定めた。 病院機能評価の受審については、院内に病院機能改善委員会や作業部会を設置し、各部署が連携して病院全体で受審準備等に取り組み、平成23年3月に訪問審査を終了した。	1	3	2	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。 なお、信頼される医療に関しては、公立病院として良質な医療を提供することが重要であることから、ウエイトを「2」に修正する。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指 標	こども病院・感染症 センター		福岡市民病院		指 標	こども病院・感染症 センター		福岡市民病院	
	平成20年 度実績値	平成24年 度目標値	平成20年 度実績値	平成24年 度目標値		平成20年 度実績値	平成22年 度目標値	平成20年 度実績値	平成22年 度目標値
服薬指導件 数 (件)	322	2,400	2,336	8,000	服薬指導件 数 (件)	322	1,200	2,336	8,000
栄養食事指 導件数 (件)	39	120	786	1,000	栄養食事指 導件数 (件)	39	100	786	900
クリニカル パス適用率 (%)	68.8	75.0	20.6	30.0	クリニカル パス適用率 (%)	68.8	72.0	20.6	23.0

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																										
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																								
イ 福岡市民病院 服薬指導については、薬剤師の2名増員や部内の担当業務の見直し等による要員確保により実施件数を拡大し、目標値を達成した。 栄養食事指導についても、医師と連携して件数増に努め、目標値を達成した。また、必要な研修を受講したうえで、平成23年2月に栄養サポートチーム加算の施設基準を取得し、栄養食事指導のさらなる充実を図った。 医療安全管理体制については、医療安全管理委員会を設置して医療安全のさらなる改善に向けた取組みを行っているが、管理体制を強化するため、医療安全管理室を新設し、専従の医療安全管理担当看護師を配置するとともに、院内感染管理体制の整備等を行った。 クリニカルパス適用率については、専門委員会を中心に対象疾病の拡大を図り、目標値を達成した。 また、十分な説明に基づくインフォームド・コンセント（作成書式総数 235種類）の徹底に努めるとともに、セカンド・オピニオンの要望に対しても、医療相談等で患者の要望内容を把握し適確に対応した。 新薬の開発治験への参加については、対応した診療科への治験収入の配分基準等を見直し、治験に対する医師のモチベーション向上を図り、循環器内科分野での新規治験を受託した。																													
【目標値】																													
	<table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・感染症 センター</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th><th>平成21年 度実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>服薬指導件数 (件)</td><td>20</td><td>855</td><td>6,235</td><td>8,198</td></tr><tr><td>栄養食事指導 件数 (件)</td><td>78</td><td>246</td><td>726</td><td>995</td></tr><tr><td>クリニカルパ ス適用率(%)</td><td>71.0</td><td>72.6</td><td>35.6</td><td>28.9</td></tr></table>				指 標	こども病院・感染症 センター		福岡市民病院		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年 度実績値	平成22年度 実績値	服薬指導件数 (件)	20	855	6,235	8,198	栄養食事指導 件数 (件)	78	246	726	995	クリニカルパ ス適用率(%)	71.0	72.6	35.6	28.9	
指 標	こども病院・感染症 センター		福岡市民病院																										
	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年 度実績値	平成22年度 実績値																									
服薬指導件数 (件)	20	855	6,235	8,198																									
栄養食事指導 件数 (件)	78	246	726	995																									
クリニカルパ ス適用率(%)	71.0	72.6	35.6	28.9																									

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 患者サービス (1) 患者サービスの向上
----------	---

中期計画	年度計画
医師、看護師等の増員による質の高い医療及び充実した看護の提供とあわせ、診療の待ち時間の短縮に取り組むとともに、患者満足度調査を実施することで患者のニーズを的確にとらえ、より柔軟な対応を行うなど患者サービスの向上を図る。 また、より快適な療養環境を提供するため、院内環境の整備を進めるとともに、治療効果を上げるための栄養管理の充実とあわせ、患者の嗜好にも配慮した病院給食の提供や保育士による病棟保育の充実（こども病院・感染症センター）に努める。 さらに、医療費の支払におけるクレジットカード、電子マネーの導入について検討するなど、患者の利便性の向上に努める。	医師、看護師等の増員による質の高い医療及び充実した看護の提供とあわせ、患者のニーズを的確にとらえるため、患者満足度調査を実施し、診療の待ち時間対策等について院内の専門委員会で検討するなど患者サービスの向上に努める。 また、栄養の観点からNST（栄養サポートチーム）活動に取り組むなど栄養管理の充実を図るとともに、患者の嗜好にも配慮した病院給食の提供に努める。 さらに、医療費の支払におけるクレジットカード、電子マネーの導入について検討するなど、患者の利便性の向上に努める。

中期目標(内容)	患者のニーズを的確にとらえ、より柔軟な対応を行うなど患者サービスの向上を図ること。 また、より快適な療養環境を提供するため、院内環境の整備を進めるとともに、患者の利便性の向上を図ること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
医師、看護師等の増員による質の高い医療及び充実した看護の提供と併せ、より一層の患者サービスの向上を図るため、両病院において以下の取組みを行った。 ア こども病院・感染症センター 接遇・療養環境委員会を毎月開催し、退院時のアンケート等をもとに、患者のニーズを分析し、改善に努めた。その結果、退院時アンケートの平均評価点数は前年度に比べ高くなり、目標を達成した。 栄養管理については、患者の病態及び嚥下等に配慮した栄養管理計画書を作成し、きめ細やかな個別対応を実施した。また、栄養サポートチームによる病棟回診も毎週1回実施し、より充実した栄養管理に取り組んだ。 イ 福岡市民病院 医師の増員や看護必要度を踏まえての手厚い看護体制を目指した7:1看護体制の導入、患者の高齢化に伴い看護補助業務が重要性を増している中での看護補助者の有期職員化(従前は委託職員)、それらの対策によって、質の高い医療及び充実した看護の提供体制を構築するとともに、地域医療連携室への医療ソーシャルワーカーの増員による医療相談体制の強化(患者相談件数:平成21年度実績5,285件⇒平成22年度実績8,159件54.4%アップ)や患者用搬送車の導入を行った。 また、平成21年度まで年2回程度であった患者向けのCSだよりを平成22年度から2か月ごとの定期発行に増やし、患者からの意見、要望等に迅速に対応できるようにした。 栄養管理の面では、平成23年2月に栄養サポートチーム加算の施設基準を取得し、栄養食事指導のさらなる充実を図った。 ウ 両病院共通 患者の利便性向上を図るため、クレジットカードによる支払いについて、他病院の導入状況や新たに発生する手数料等の調査など、導入に向けた検討を進めた。	2	3	—	—	病院ごとに異なるアンケートを行っているため、病院ごとに細分化して評価を行う。 年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。 目標値には達していないものの、評価できる数値に達していることから、「評価3」とする。 ただし、アンケートの内容及び方法については、両病院の整合性を考慮し、今後見直しを検討していただきたい。

中期計画

【目標値（こども病院・感染症センター）】

指 標	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値
退院時アンケートの平均評価点数（点） ※	4.3	4.5

※ 全入院患者に対し、入院時にアンケートを配付し、退院時に回収

10項目の視点(職種ごとの接遇状況、病室等の環境、食事内容等)に対し、各5点満点で点数を記入してもらう。

【目標値（福岡市民病院）】

指 標	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値
患者満足度調査で非常に満足を感じている患者の割合（%） ※	69.4	80.0

※ 職員の接遇や勤務態度等を中心に調査を実施

この調査において、非常に満足を感じられた患者の割合を記載

年度計画

【目標値（こども病院・感染症センター）】

指 標	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値
退院時アンケートの平均評価点数（点） ※	4.3	4.4

※ 全入院患者に対し、入院時にアンケートを配付し、退院時に回収

10項目の視点(職種ごとの接遇状況、病室等の環境、食事内容等)に対し、各5点満点で点数を記入してもらう。

【目標値（福岡市民病院）】

指 標	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値
患者満足度調査で非常に満足を感じている患者の割合（%） ※	69.4	73.0

※ 職員の接遇や勤務態度等を中心に調査を実施

この調査において、非常に満足を感じられた患者の割合を記載

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価														
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど												
【目標値（こども病院・感染症センター）】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>退院時アンケートの平均評価点数（点） ※</td><td>4.2</td><td>4.4</td></tr></table> ※ 全入院患者に対し、入院時にアンケートを配付し、退院時に回収 10項目の視点（職種ごとの接遇状況、病室等の環境、食事内容等）に対し、各5点満点で点数を記入してもらう。 【目標値（福岡市民病院）】 <table><tr><th>指 標</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査で非常に満足を感じている患者の割合（％） ※</td><td>78.1</td><td>70.5</td></tr></table> ※ 職員の接遇や勤務態度等を中心に調査を実施 この調査において、非常に満足を感じられた患者の割合を記載	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	退院時アンケートの平均評価点数（点） ※	4.2	4.4	指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	患者満足度調査で非常に満足を感じている患者の割合（％） ※	78.1	70.5					
指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値															
退院時アンケートの平均評価点数（点） ※	4.2	4.4															
指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値															
患者満足度調査で非常に満足を感じている患者の割合（％） ※	78.1	70.5															

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 患者サービス (2) ボランティアとの共働
----------	--

中期計画	年度計画																				
植栽等の構内環境の整備や院内コンサートの実施等、ボランティアとの連携を図り、市民・患者の視点に立ったサービス向上に取り組む。 【関連指標（こども病院・感染症センター）】 <table> <tr> <th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th></tr> <tr> <td>植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）</td><td>4</td></tr> <tr> <td>お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）</td><td>4</td></tr> <tr> <td>プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）</td><td>23</td></tr> <tr> <td>院内コンサート等開催数（回）</td><td>7</td></tr> </table>	指 標	平成20年度 実績値	植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）	4	お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）	4	プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）	23	院内コンサート等開催数（回）	7	ア こども病院・感染症センター 職員とボランティアが共働して互いに連携をとりながら、市民・患者の目線に立ったサービスの向上を図るため、より細やかな取組みに努める。 病棟保育士を活用し、ボランティアの協力を得て、親子ともども入院生活が過ごしやすくなるよう療養環境の向上を図る。 【関連指標（こども病院・感染症センター）】 <table> <tr> <th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th></tr> <tr> <td>植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）</td><td>4</td></tr> <tr> <td>お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）</td><td>4</td></tr> <tr> <td>プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）</td><td>23</td></tr> <tr> <td>院内コンサート等開催数（回）</td><td>7</td></tr> </table>	指 標	平成20年度 実績値	植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）	4	お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）	4	プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）	23	院内コンサート等開催数（回）	7
指 標	平成20年度 実績値																				
植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）	4																				
お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）	4																				
プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）	23																				
院内コンサート等開催数（回）	7																				
指 標	平成20年度 実績値																				
植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）	4																				
お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）	4																				
プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）	23																				
院内コンサート等開催数（回）	7																				

中期目標(内容)	ボランティアとの連携を図り、市民・患者の視点に立ったサービス向上のための取組みを進めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	
ア こども病院・感染症センター 植栽や院内の飾り付けなどについて、ボランティアの協力を得て子どもが喜ぶようなものを多く取り入れるなど内容の充実を図り、外来待ち時間が少しでも過ごしやすく感じるような取組みを推進し、また、院内コンサート等も前年度よりも5回多く実施した。 さらに、病棟保育士との連携のもと、こども見守りボランティア等の協力を得て、親子ともども入院生活をより過ごしやすいものにするよう努めた。	1	4	1	4	積極的にボランティアの協力を得て、院内コンサートを前年度より大幅に増やすなど、院内での過ごしやすい環境作りに取り組んだことから、「評価4」が妥当である。
【関連指標（こども病院・感染症センター）】					
指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値			
植栽・院内飾り付け等ボランティア登録数（団体）	4	4			
お話会・工作教室等のボランティア登録数（団体）	4	5			
プレイコーナーこども見守りボランティア登録数（人）	21	23			
院内コンサート等開催数（回）	7	12			

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 患者サービス (2) ボランティアとの共働
----------	--

中期計画	年度計画																
植栽等の構内環境の整備や院内コンサートの実施等，ボランティアとの連携を図り，市民・患者の視点に立ったサービス向上に取り組む。 【関連指標（福岡市民病院）】 <table> <tr> <th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th></tr> <tr> <td>植栽ボランティア登録数（団体）</td><td>1</td></tr> <tr> <td>患者との対話ボランティア登録数（人）</td><td>1</td></tr> <tr> <td>院内コンサート開催数（回）</td><td>3</td></tr> </table>	指 標	平成20年度 実績値	植栽ボランティア登録数（団体）	1	患者との対話ボランティア登録数（人）	1	院内コンサート開催数（回）	3	イ 福岡市民病院 植栽等の構内環境の整備や院内コンサートの実施等，ボランティアとの連携を図り，市民・患者の視点に立ったサービス向上に取り組む。 【関連指標（福岡市民病院）】 <table> <tr> <th>指 標</th><th>平成20年度 実績値</th></tr> <tr> <td>植栽ボランティア登録数（団体）</td><td>1</td></tr> <tr> <td>患者との対話ボランティア登録数（人）</td><td>1</td></tr> <tr> <td>院内コンサート開催数（回）</td><td>3</td></tr> </table>	指 標	平成20年度 実績値	植栽ボランティア登録数（団体）	1	患者との対話ボランティア登録数（人）	1	院内コンサート開催数（回）	3
指 標	平成20年度 実績値																
植栽ボランティア登録数（団体）	1																
患者との対話ボランティア登録数（人）	1																
院内コンサート開催数（回）	3																
指 標	平成20年度 実績値																
植栽ボランティア登録数（団体）	1																
患者との対話ボランティア登録数（人）	1																
院内コンサート開催数（回）	3																

中期目標(内容)	ボランティアとの連携を図り、市民・患者の視点に立ったサービス向上のための取組みを進めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 地域や大学のコーラスグループ等の協力により、院内コンサートをここ数年では最多の7回開催した。のこぎりを使った大変珍しい演奏や、当院医師とのジョイントなど、内容にも工夫を凝らし、大変好評であった。 また、院内ボランティアに、外来での患者のお世話や入院患者の話相手になってもらうなど、患者と触れ合いを大切に活動を行っていただき、きめ細やかな患者サービスに努めた。 その他、植栽ボランティアに花の植替えや花壇の手入れ等で協力をいただき、院内の美化に努めた。	1	3	1	3	ボランティアの協力により、実績としては、前年を上回ることができており、「評価3」が妥当である。

【関連指標（福岡市民病院）】

指 標	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値
植栽ボランティア登録数(団体)	1	1
患者との対話ボランティア登録数（人）	1	1
院内コンサート開催数（回）	3	7

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 4 法令遵守と情報公開
-----------------	--

中期計画	年度計画
市立病院としての使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、内部規程の策定、倫理委員会によるチェック等を通じ、役職員の行動規範と倫理を確立する。 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応する。 また、法人の経営状況、専門医療に関する情報、各病院の役割及び医療内容、地域の医療機関との連携等について、ホームページや講演会等を通じ、情報発信に取り組む。	市立病院としての使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、内部規程の策定、倫理委員会によるチェック等を通じ、役職員の行動規範と倫理を確立する。 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）や受療者の個人情報の保護に関する院内規則及び診療情報の提供に関する要領等の院内規程に基づき、適切に対応する。 また、法人の経営状況、専門医療に関する情報、各病院の役割及び医療内容、地域の医療機関との連携等について、ホームページや講演会等を通じ、情報発信に取り組む。

中期目標(内容)	市立病院としての使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理を確立し、適正な病院運営を行うこと。 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。また、専門医療に関する情報、各病院の役割及び医療内容、地域の医療機関との連携等についても、ホームページ等を活用し、情報を発信すること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	
医療法をはじめとする関係法令の遵守はもとより、法人設立に伴い、法人の運営管理や職員管理等に関する各種内部規程を整備し、適正な運営を行った。 また、法人全体の業務の適正及び効率性の検証を行うため、監事（弁護士、公認会計士）による業務監査及び会計監査の実施に加え、内部監査室を設置し、外部の監査法人と連携して業務管理や会計処理等に関する監査を実施するなど、内部統制の整備を行った。 個人情報保護及び情報公開については、福岡市の関係条例及び院内の診療録管理規程に基づき適切に対応しており、診療録の開示に際しては、同規程に基づき、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定している。 両病院ともに積極的な情報発信に取り組んでおり、こども病院・感染症センターにおいては、例年作成している「年報」や「病院のご案内」に加えホームページや情報誌「みらい」等を活用して病院の役割や医療内容・医療情報等を発信しており、平成22年10月には開院30周年記念講演会を開催し、一般市民、医療関係者等約200名もの参加を得た。 また、福岡市民病院においても、例年作成している「ふれあい」（診療情報誌）、「アイリス」（年報）に加え、連携医療機関向けの病院案内（リーフレット）を8,000部作成し、博多区、東区、糟屋郡南部等近隣の連携医療機関を中心に配付した。ホームページに関しても、カテゴリーの見直し等により、分かりやすい画面になるよう大幅なリニューアルを行ったほか、市民の健康の維持及び増進への寄与及び広報活動の一環として、公民館や関係団体とタイアップした出前講座にも新たに取り組むこととし、平成22年度は2回実施した。	1	3	1	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 運営組織
中期計画	年度計画
市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会及び本部事務局などの組織体制を整備するとともに、市立病院機構内で適切な権限配分を行い、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、効果的・効率的な経営が可能となる運営管理体制を構築する。 また、病院経営に関する知識・経験を有する人材の民間等からの採用や、医療の専門知識を有する医療技術職の事務部門への配置等、弾力的な人事管理を行い、必要に応じて医療経営コンサルタント等も活用しながら診療報酬改定等の医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な経営戦略を企画・立案できる事務部門を構築する。 さらに、看護師等の医療従事者が病院経営により積極的に参画できる仕組みの構築を図る。	市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会及び本部事務局などの組織体制を整備するとともに、市立病院機構内で適切な権限配分を行い、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、効果的・効率的な経営が可能となる運営管理体制を構築する。 また、病院経営に関する知識・経験を有する人材の民間等からの採用や、医療の専門知識を有する医療技術職の事務部門への配置等、弾力的な人事管理を行い、必要に応じて医療経営コンサルタント等も活用しながら診療報酬改定等の医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な経営戦略を企画・立案できる事務部門を構築する。 さらに、看護師等の医療従事者が病院経営により積極的に参画できる仕組みの構築を図る。

中期目標(内容)	市立病院機構の運営を的確に行えるよう、理事会及び本部事務局などの組織体制を整備するとともに、市立病院機構内で適切な権限配分を行い、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、効果的・効率的な経営が可能となる運営管理体制を構築すること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
市立病院機構の運営を的確に行っていくため、医療の専門家や企業経営者等の外部理事を含む理事会を設置し、理事会の決定方針に沿った運営を行った。(平成22年度の開催実績：10回) また、病院の予算編成や組織編成等の権限を院長に委譲し、院長のリーダーシップの下、両病院が現場の実態に即した効率的・効果的な経営を行っていくための環境を整備するとともに、法人全体としても以下のような取組みを行った。 【民間等からの職員採用】 職員採用については、民間病院で管理職経験がある者を事務局長及び医事課長(ともに市民病院)へ配置するとともに、民間病院等の事務経験者及び診療情報管理士としての業務経験者等を即戦力として採用(こども病院3人、市民病院4人、本部事務局3人)するなど、計画的なプロパー化に取り組んだ。 【事務部門等の体制づくり】 経営企画課の新設や、病院経営に関する知識・経験を有する人材の配置等により事務部門の組織体制の強化を図るとともに、医療コンサルタント等も活用しながら効率的な経営に努めた。 また、平成23年度も引き続き事務部門・医事部門の強化を図るため、民間病院等において事務経験(医事・経理・人事等、病院情報システム管理、診療情報管理等)があることを受験資格とした職員採用試験を実施するなどにより、経験者を中心に平成23年度の新規採用職員11名(こども病院3名、市民病院5人、本部事務局3人)を確保した。 【看護師等の経営参画】 看護師が病院経営により積極的に参画できるよう、平成22年10月に両病院の看護部長を課長級から部長級へ昇格させるとともに、看護部長の業務全般を補佐する者として、両病院に新たに課長級の副看護部長ポストを設置した。	2	3	2	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。 ただし、看護師等の経営参画に当たっては、毎月法人本部で行われる経営会議等に看護部長を出席させるなど、実質的な経営参画の手法について、検討が必要である。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
	2 収支改善 (1) 増収

中期計画			年度計画		
診療体制の充実や病床利用率の向上、高度医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 また、診療報酬請求に係るチェック体制を強化し、請求漏れや査定減を防止するとともに、コンビニ収納等の拡大による未収金発生の防止や法的措置も含め、未収金対策の強化に取り組む。 こども病院・感染症センターにおいては、夜間の看護体制を充実させるため、看護師を増員し、小児入院医療管理料1の全病棟適用を行う。			診療体制の充実や病床利用率の向上、高度医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 また、診療報酬請求に係るチェック体制を強化し、請求漏れや査定減を防止するとともに、コンビニ収納等の拡大による未収金発生の防止や法的措置も含め、未収金対策の強化に取り組む。 〈こども病院・感染症センター〉 ア 夜間の看護体制を充実させるため、看護師を増員し、小児入院医療管理料1の全病棟適用を行う。 イ 診療報酬請求に係るチェック体制の強化のため、専任の担当者を配置する。		
【目標値】			【目標値】		
指 標	こども病院・感染症センター		指 標	こども病院・感染症センター	
	平成20年度実績値	平成24年度目標値		平成20年度実績値	平成22年度目標値
病床利用率 (%) ※	79.9	81.6	病床利用率 (%)	79.9	80.5
新規入院患者 (人)	5,113	5,190	新規入院患者 (人)	5,113	5,150
平均在院日数 (日) ※	9.9	9.9	平均在院日数 (日) ※	9.9	9.9
1人1日当たり 入院単価(円) ※	79,431	86,697	1人1日当たり 入院単価(円) ※	79,431	84,128
1日当たり外 来患者数(人) ※	289.5	292.0	1日当たり外 来患者数(人) ※	289.5	290.0
1人1日当たり 外来単価(円) ※	10,515	10,455	1人1日当たり 外来単価(円) ※	10,515	10,506
手術件数(件) ※	2,041	2,100	手術件数(件) ※	2,041	2,070
救急搬送件数 (件) ※	686	720	救急搬送件数 (件) ※	686	700
診療報酬請求 査定減(%)	0.23	0.20	診療報酬請求 査定減率(%)	0.23	0.22
※ 再掲			※ 再掲		

中期目標(内容)	診療体制の充実，病床利用率の向上や高度医療機器の稼働率向上を図り，増収を目指すこと。 また，診療報酬の請求漏れや査定減の防止，未収金発生の防止や確実な回収に努めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																																		
	ウ エ イ ト	評 価	ウ エ イ ト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																
〈こども病院・感染症センター〉 医業収益については、平成21年度の実績53億3,200万円余に対し、平成22年度目標値を54億5,700万円余と大幅にアップして設定したが、これをさらに約2億9,500万円上回る57億5,200万円余を達成した。 ア 看護師の増員により、夜間の看護体制を充実させ、全病棟に小児入院医療管理料1を、また、GCU（回復治療室）に新生児治療回復室入院医療管理料を適用した。これらの取組みによって入院診療単価の上昇を図り、診療報酬改定の影響も合わせて大幅な増収を達成した。 イ 診療報酬請求については、専任の担当者を配置してDPCのコーディングチェックを行い、委託業者とのダブルチェック体制にて精度の向上を図った。 また、未収金解消の対策としては、電話や文書による督促のほか、簡易裁判所の支払督促や少額訴訟の申立てを前提とした最終督促状の送付などにより回収に努めた。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・感染症センター</th></tr><tr><th>平成21年度実績値</th><th>平成22年度実績値</th></tr><tr><td>病 床 利 用 率 (%)</td><td>77.8</td><td>74.8</td></tr><tr><td>新規入院患者 (人)</td><td>5,069</td><td>4,951</td></tr><tr><td>平均在院日数 (日) ※</td><td>9.6</td><td>9.5</td></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円） ※</td><td>84,713</td><td>95,347</td></tr><tr><td>1日当たり外来 患者数（人）※</td><td>278.8</td><td>275.4</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円） ※</td><td>10,914</td><td>11,620</td></tr><tr><td>手術件数（件） ※</td><td>2,036</td><td>2,128</td></tr><tr><td>救急搬送件数 (件) ※</td><td>766</td><td>763</td></tr><tr><td>診療報酬請求 査定減率（%）</td><td>0.25</td><td>0.40</td></tr></table> ※ 再掲	指 標	こども病院・感染症センター		平成21年度実績値	平成22年度実績値	病 床 利 用 率 (%)	77.8	74.8	新規入院患者 (人)	5,069	4,951	平均在院日数 (日) ※	9.6	9.5	1人1日当たり 入院単価（円） ※	84,713	95,347	1日当たり外来 患者数（人）※	278.8	275.4	1人1日当たり 外来単価（円） ※	10,914	11,620	手術件数（件） ※	2,036	2,128	救急搬送件数 (件) ※	766	763	診療報酬請求 査定減率（%）	0.25	0.40	3	4	3	4	患者数は、前年度より減少したものの、看護体制の充実や手術件数の増加等により、入院診療単価の上昇など、大幅な増収を達成することができたことから、「評価4」が妥当である。
指 標		こども病院・感染症センター																																			
	平成21年度実績値	平成22年度実績値																																			
病 床 利 用 率 (%)	77.8	74.8																																			
新規入院患者 (人)	5,069	4,951																																			
平均在院日数 (日) ※	9.6	9.5																																			
1人1日当たり 入院単価（円） ※	84,713	95,347																																			
1日当たり外来 患者数（人）※	278.8	275.4																																			
1人1日当たり 外来単価（円） ※	10,914	11,620																																			
手術件数（件） ※	2,036	2,128																																			
救急搬送件数 (件) ※	766	763																																			
診療報酬請求 査定減率（%）	0.25	0.40																																			

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (1) 増収
----------	---

中期計画	年度計画
診療体制の充実や病床利用率の向上、高度医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 また、診療報酬請求に係るチェック体制を強化し、請求漏れや査定減を防止するとともに、コンビニ収納等の拡大による未収金発生の防止や法的措置も含め、未収金対策の強化に取り組む。 福岡市民病院においては、看護師を増員し、7：1看護体制を導入するとともに、SCUの設置など診療体制を充実し、高度救急医療体制の拡充を図る。	〈福岡市民病院〉 ア 看護師を増員し、7：1看護体制を導入する。 イ SCUの設置など診療体制を充実し、高度救急医療体制の拡充を図る。

中期目標(内容)	診療体制の充実，病床利用率の向上や高度医療機器の稼働率向上を図り，増収を目指すこと。 また，診療報酬の請求漏れや査定減の防止，未収金発生の防止や確実な回収に努めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
〈福岡市民病院〉 医業収益に関しては，平成21年度の実績約39億9,800万円に対し，平成22年度は44億3,500万円余と大幅に引き上げた数値目標を設定していたが，実績はさらにその目標値を9,100万円余上回る45億2,600万円余を達成した。 ※医業収益の比較 平成21年度 3,997,962千円 平成22年度 4,526,290千円（13.2%増） この要因としては，診療報酬改定の影響や看護師を増員したことによる7：1看護体制の導入に加え，近隣の医療機関訪問に重点的に取り組んだことによる紹介患者の拡大（紹介率の年度目標：70.7%⇒実績：76.8%），救急搬送受入件数の増加（年度目標：1,900件⇒実績：2,227件）に伴う新規入院患者の増，SCU（稼働率97.4%）の設置による脳卒中センターの機能強化に伴う患者増等によるものである。1日当たり患者数は，入院・外来ともに目標には達しなかったが，ポイントとなる新規入院患者数については目標を達成しており，また，高度救急医療への特化や，手術件数の大幅増（年度目標：1,880件⇒実績：2,546件）により，平均診療単価が，入院，外来ともに年度目標を上回ったことも増収に繋がっている。 高度医療機器については，平成23年1月より機能アップした新型CT（64列）の稼働を開始し，冠動脈CTの施設基準（600点）を取得して増収を図った。 また，チーム医療体制の充実を図るとともに増収対策の一環として，栄養サポートチーム加算の施設基準を平成23年2月に取得した。 この他，より適正な診療報酬請求を行うために，診療情報管理士によるDPCのコーディングチェックを徹底するとともに，各病棟に医事業務委託業者のオペレーターを配置し，現場で密接な連絡を取りながら，請求漏れの防止に努めた。	3	4	3	4	患者数は，前年度より減少したものの，看護体制の充実や手術件数の増加等により，入院診療単価の上昇など，大幅な増収を達成することができたことから，「評価4」が妥当である。

中期計画

【目標値】

指 標	福岡市民病院	
	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値
病床利用率 (%)	92.0	95.0
新規入院患者 (人)	3,804	4,200
平均在院日数 (日) ※	15.6	14.0
1人1日当たり 入院単価(円) ※	46,320	56,466
1日当たり外 来患者数(人) ※	252.7	300.0
1人1日当たり 外来単価(円) ※	15,076	11,481
手術件数(件) ※	1,842	2,000
救急搬送件数 (件) ※	1,689	2,200
診療報酬請求 査定減率(%)	0.12	0.09

※ 再掲

年度計画

【目標値】

指 標	福岡市民病院	
	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値
病床利用率 (%)	92.0	92.5
新規入院患者 (人)	3,804	4,000
平均在院日数 (日) ※	15.6	15.2
1人1日当たり 入院単価(円) ※	46,320	53,085
1日当たり外 来患者数(人) ※	252.7	277.0
1人1日当たり 外来単価(円) ※	15,076	11,517
手術件数(件) ※	1,842	1,880
救急搬送件数 (件) ※	1,689	1,900
診療報酬請求 査定減率(%)	0.12	0.11

※ 再掲

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																																	
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																															
未収金対策については、少額訴訟等の法的措置の導入を検討するとともに、時間外救急患者に対応するため、医療事務担当者を22時まで配置することとした。また、未収金対策の専任化や債権回収の外部委託等、平成23年度以降の組織体制や対応策についても検討を行った。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>病 床 利 用 率 (%)</td><td>91.8</td><td>89.8</td></tr><tr><td>新規入院患者 (人)</td><td>3,945</td><td>4,080</td></tr><tr><td>平均在院日数 (日) ※</td><td>15.1</td><td>13.5</td></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価(円) ※</td><td>46,696</td><td>54,727</td></tr><tr><td>1日当たり外 来患者数(人) ※</td><td>263.6</td><td>239.9</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価(円) ※</td><td>12,469</td><td>14,824</td></tr><tr><td>手術件数(件) ※</td><td>1,869</td><td>2,546</td></tr><tr><td>救急搬送件数 (件) ※</td><td>1,931</td><td>2,227</td></tr><tr><td>診療報酬請求 査定減率(%)</td><td>0.14</td><td>0.23</td></tr></table> ※ 再掲	指 標	福岡市民病院		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	病 床 利 用 率 (%)	91.8	89.8	新規入院患者 (人)	3,945	4,080	平均在院日数 (日) ※	15.1	13.5	1人1日当たり 入院単価(円) ※	46,696	54,727	1日当たり外 来患者数(人) ※	263.6	239.9	1人1日当たり 外来単価(円) ※	12,469	14,824	手術件数(件) ※	1,869	2,546	救急搬送件数 (件) ※	1,931	2,227	診療報酬請求 査定減率(%)	0.14	0.23				
指 標		福岡市民病院																																		
	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																																		
病 床 利 用 率 (%)	91.8	89.8																																		
新規入院患者 (人)	3,945	4,080																																		
平均在院日数 (日) ※	15.1	13.5																																		
1人1日当たり 入院単価(円) ※	46,696	54,727																																		
1日当たり外 来患者数(人) ※	263.6	239.9																																		
1人1日当たり 外来単価(円) ※	12,469	14,824																																		
手術件数(件) ※	1,869	2,546																																		
救急搬送件数 (件) ※	1,931	2,227																																		
診療報酬請求 査定減率(%)	0.14	0.23																																		

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (2) 費用削減
中期計画	年度計画
予算科目及び年度間で弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行い、効果的・効率的な事業運営に取り組む。 また、診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底や契約手法及び委託業務の見直し、ジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 さらに、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化、既存施設の有効活用などのアセットマネジメントを推進する。	予算科目及び年度間で弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行い、効果的・効率的な事業運営に取り組む。 また、診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底や契約手法及び委託業務の見直し、ジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 さらに、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化、既存施設の有効活用などのアセットマネジメントを推進する。

中期目標(内容)	予算科目及び年度間で弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行うことにより、効果的・効率的な事業運営に努めること。 また、価格交渉の徹底や多様な契約手法の活用、委託業務の見直し等を行い、費用の削減を図ること。 さらに、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化、既存施設の有効活用などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
人事管理や給与支給事務など両病院に共通する業務については、本部事務局において集約して執行するなど、法人全体でより効率的な事業運営に努めるとともに、以下のとおり徹底した費用削減に取り組んだ。 ア こども病院・感染症センター 診療材料等の調達については、製造業者や販売卸業者と徹底した価格交渉を行い費用の削減に努めた。その結果、診療材料費対医業収益比率を前年度より低く抑えることができた。 ジェネリック医薬品については、小児医療の場合、対象薬品が限られている状況ではあるが、対象薬品がある場合には、積極的に採用を検討するなど使用拡大に努めた。 施設・設備については、専門業者を活用し計画的に点検・保守管理を行うとともに、必要に応じた適切な修理を行い、長寿命化に努めた。築30年が経過し、老朽・狭隘な施設であるが、医療機能の向上を図るうえで新たに必要となる施設については、既存施設を改修して対応した。 イ 福岡市民病院 費用削減のうち、診療材料費については、診療材料選定委員会で十分な検討を行ったうえで、より安価な材料への切替えを推進するとともに、外部コンサルタントを活用した価格交渉の徹底やSPDシステムの更新による在庫管理の徹底を行った結果、診療材料費対医業収益比率は目標値には届かなかったものの、前年度からは大幅に好転した。 また、医薬品についても、平成22年度に新設された「新薬創出、適応外薬解消等促進加算」の影響で価格交渉が難航したが、外部コンサルタントを活用し、平成21年度並みまで削減した。併せて、ジェネリック医薬品については、57品目(目標30品目)について新たに切替えを行い、目標値を大きく上回った。	3	3	3	3	年度計画に従って概ね目標が達成されており、「評価3」が妥当である。

中期計画					年度計画				
【目標値】 (単位：％)					【目標値】 (単位：％)				
指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院		指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院	
	平成20年 度実績値	平成24年 度目標値	平成20年 度実績値	平成24年 度目標値		平成20年 度実績値	平成22年 度目標値	平成20年 度実績値	平成22年 度目標値
材料費対 医業収益 比率	20.1	20.8	32.3	25.9	材料費対 医業収益 比率	20.1	20.8	32.3	25.9
うち薬 品費対 医業収益 比率	6.9	6.4	14.9	9.9	うち薬 品費対 医業収益 比率	6.9	6.5	14.9	9.9
うち診 療材料 費対医 業収益 比率	12.5	13.7	16.2	15.9	うち診 療材料 費対医 業収益 比率	12.5	13.6	16.2	15.8
委託費対 医業収益 比率	8.4	7.7	10.4	11.1	委託費対 医業収益 比率	8.4	8.0	10.4	12.1
ジェネリ ック医薬 品導入率	4.7	8.0	14.6	24.0	ジェネリ ック医薬 品導入率	4.7	6.0	14.6	17.8

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価																																			
委託費については、複数年契約の導入や委託業務内容の見直し等により削減に努めた。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化、既存施設の有効活用などのアセットマネジメントの一環として、各種設備の現況調査に着手した。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・ 感染症センター</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>材料費対 医業収益 比率</td><td>22.0</td><td>20.3</td><td>30.1</td><td>25.8</td></tr><tr><td>うち薬 品費対 医業収 益比率</td><td>7.2</td><td>6.8</td><td>9.7</td><td>9.5</td></tr><tr><td>うち診 療材料 費対医 業収益 比率</td><td>13.8</td><td>12.7</td><td>19.2</td><td>16.1</td></tr><tr><td>委託費対 医業収益 比率</td><td>8.7</td><td>7.4</td><td>11.9</td><td>8.2</td></tr><tr><td>ジェネリ ック医薬 品導入率</td><td>5.6</td><td>5.6</td><td>14.7</td><td>20.7</td></tr></table>	指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	材料費対 医業収益 比率	22.0	20.3	30.1	25.8	うち薬 品費対 医業収 益比率	7.2	6.8	9.7	9.5	うち診 療材料 費対医 業収益 比率	13.8	12.7	19.2	16.1	委託費対 医業収益 比率	8.7	7.4	11.9	8.2	ジェネリ ック医薬 品導入率	5.6	5.6	14.7	20.7					
指 標		こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院																																			
	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																																			
材料費対 医業収益 比率	22.0	20.3	30.1	25.8																																			
うち薬 品費対 医業収 益比率	7.2	6.8	9.7	9.5																																			
うち診 療材料 費対医 業収益 比率	13.8	12.7	19.2	16.1																																			
委託費対 医業収益 比率	8.7	7.4	11.9	8.2																																			
ジェネリ ック医薬 品導入率	5.6	5.6	14.7	20.7																																			

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 第3 人事・給与
----------	--

中期計画	年度計画																																
職員の意欲を引き出す人事制度を構築するとともに、職員の業績や能力、貢献度が公平に客観的に評価され、処遇面等に活かされる人事評価システムの導入を図る。 また、病院の業績や職員の職務・職責等に応じた給与制度を導入し、職員のモチベーションの維持・向上及び人件費の適正化を図る。 有期職員については、より効率的・効果的な勤務体制の検討を行う。	職員の業績や能力等が公平に客観的に評価され、処遇面等に活かされる人事評価システムの構築に取り組む。 病院の業績や職員の職務・職責等を適正に給与に反映させ、職員のモチベーションの維持・向上及び人件費の適正化を図るため、独立行政法人国立病院機構に準拠した給与制度を導入する。 有期職員を効率的・効果的に配置できるよう、有期職員の労働条件を整備する。																																
【目標値】 (単位：％)	【目標値】 (単位：％)																																
<table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・ 感染症センター</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成20年度 実績値</th><th>平成24年度 目標値</th><th>平成20年度 実績値</th><th>平成24年度 目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">病院職員の給与費 対医業収 益比率</td><td rowspan="2">56.2</td><td>60.0</td><td rowspan="2">53.9</td><td>55.9</td></tr><tr><td>(退職給 付費用を 除く。) 57.2</td><td>(退職給 付費用を 除く。) 53.3</td></tr></table>	指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院		平成20年度 実績値	平成24年度 目標値	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値	病院職員の給与費 対医業収 益比率	56.2	60.0	53.9	55.9	(退職給 付費用を 除く。) 57.2	(退職給 付費用を 除く。) 53.3	<table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・ 感染症センター</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成20年度 実績値</th><th>平成22年度 目標値</th><th>平成20年度 実績値</th><th>平成22年度 目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">病院職員の給与費 対医業収 益比率</td><td rowspan="2">56.2</td><td>60.8</td><td rowspan="2">53.9</td><td>61.0</td></tr><tr><td>(退職給 付費用を 除く。) 58.0</td><td>(退職給 付費用を 除く。) 58.3</td></tr></table>	指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院		平成20年度 実績値	平成22年度 目標値	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値	病院職員の給与費 対医業収 益比率	56.2	60.8	53.9	61.0	(退職給 付費用を 除く。) 58.0	(退職給 付費用を 除く。) 58.3
指 標		こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院																													
	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値																													
病院職員の給与費 対医業収 益比率	56.2	60.0	53.9	55.9																													
		(退職給 付費用を 除く。) 57.2		(退職給 付費用を 除く。) 53.3																													
指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院																														
	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値																													
病院職員の給与費 対医業収 益比率	56.2	60.8	53.9	61.0																													
		(退職給 付費用を 除く。) 58.0		(退職給 付費用を 除く。) 58.3																													
※ 平成20年度の給与費は、退職手当を含まない。	※ 平成20年度の給与費は、退職手当を含まない。																																

中期目標(内容)	職員の意欲を引き出す人事制度を構築し、職員の業績や能力を的確に評価するための公正かつ客観的な人事評価システムの導入に努めること。 また、病院の業績等に応じた給与制度を導入し、職員のモチベーションの維持・向上及び人件費の適正化を図ること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど																		
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価																			
職員のモチベーションの維持・向上及び人件費の適正化等を図るため、以下の取組みを行った。 【新たな給与制度の導入】 年度計画に基づき、「独立行政法人国立病院機構」に準拠した給与制度を導入し、経営の効率化及び給与水準の適正化を図った。 また、独立行政法人国立病院機構をはじめ、国や福岡市における平成22年度給与の改定状況を踏まえ、労働組合と協議を行い、適正な給与水準となるよう給料表及び業績手当の支給割合等の改正を行った。 【人事評価制度の構築】 職員の業績や能力・貢献度等を「業績評価」「行動評価」及び「院長評価」の3つの視点で評価し、業績年俸額等へ反映させる人事評価制度を新たに構築し、平成23年4月1日から両病院の医師を対象にスタートさせることとした。 【有期職員の労働条件の整備】 正規職員以外の職員については、従前の嘱託員又は臨時的任用職員といった雇用区分を廃止し、新たに有期職員として一本化するとともに、雇用に当たっては、両病院の配置ニーズに応じて自由な雇用形態が選択できるようにするため、院長の裁量によって配置人数や勤務時間等を決定することとし、必要に応じて随時雇用できる制度とした。 【目標値】 （単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・ 感染症センター</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td rowspan="3">病院職員 の給与費 対医業収 益比率</td><td rowspan="3">55.0</td><td>59.2</td><td rowspan="3">55.9</td><td>55.8</td></tr><tr><td>（退職給 付費用を 除く。）</td><td>（退職給 付費用を 除く。）</td></tr><tr><td>56.0</td><td>53.1</td></tr></table> ※ 平成21年度の給与費は、退職手当を含まない。	指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	病院職員 の給与費 対医業収 益比率	55.0	59.2	55.9	55.8	（退職給 付費用を 除く。）	（退職給 付費用を 除く。）	56.0	53.1	2	4	2	4	給与水準の適正化に向けた組合との協議を精力的に行うとともに、職員のモチベーションの維持・向上につながる人事評価制度の創設、自由な雇用形態が選択できる有期職員の配置など、働きやすい環境作りが行われており、「評価4」が妥当である。
指 標		こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院																			
	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																			
病院職員 の給与費 対医業収 益比率	55.0	59.2	55.9	55.8																			
		（退職給 付費用を 除く。）		（退職給 付費用を 除く。）																			
		56.0		53.1																			

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 経営基盤の確立
中期計画	年度計画
市からの指示に基づき提供する医療のうち、効率的な経営を行ってもなお不採算となる部門の経費については、運営費負担金として市からの経費負担があるが、それ以外の事業経費については、法人の事業経営に伴う収入をもって充てなければならない。したがって、この運営費負担金繰入後の経常黒字が達成できる経営基盤を確立するため、経営改善のために取り組むべき課題を明確にし、増収及び費用削減や中・長期的視点に立ったコスト管理に取り組むとともに、月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し、部門ごとの経営状況の分析や他病院との比較分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。 また、部門ごとに具体的な目標を設定し、その達成状況を適宜確認するなど経営管理を徹底する。	市からの運営費負担金繰入後の経常黒字が達成できる経営基盤を確立するため、経営改善のために取り組むべき課題を明確にし、増収及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し、部門ごとの経営状況の分析や他病院との比較分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。 また、部門ごとに具体的な目標を設定し、その達成状況を適宜確認するなど経営管理を徹底する。

中期目標(内容)	市立病院の使命を果たすため、福岡市からの必要な経費負担後の経常黒字が達成できる経営基盤を確立すること。 そのため、経営に関する情報を迅速に把握し、部門ごとの経営状況の分析や他病院との比較分析を行うなど、経営改善のために取り組むべき課題を明確にし、効率的な病院経営に努めること。 また、部門ごとに具体的な目標を設定し、その達成状況を適宜確認するなど経営管理を徹底すること。
----------	--

評価の半断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		評価の半断理由・評価のコメントなど
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	
毎月、法人の経営幹部(理事長、副理事長、本部事務局長、病院事務局長)で構成する「経営会議」を開催し、月次の経営管理諸表により、随時、経営状況を検証するとともに、四半期ごとに課題を分析のうえ、適切な改善策を講じるなどの経営管理を徹底し、効率的な病院経営を行うための経営基盤を確立した。 また、両病院において積極的な増収対策や費用削減に取り組んだ結果、市からの運営費負担金繰入後の経常黒字を達成した。 両病院の主な取組みは以下のとおり。 ア こども病院・感染症センター 増収対策として、小児入院医療管理料1の適用や、タクシー駐車場の有料化等を実施するとともに、服薬指導及び栄養食事指導の件数増加に努めた。また、費用削減として、診療材料等の調達に係る徹底した価格交渉の実施や、医師賠償責任保険の見直し、エネルギー診断事業の契約見直し等を実施した。 医業収益は、予算を約2億9,500万円上回る57億5,200万円余となり、一方、営業費用は、67億5,300万円余の予算に対し67億1,600万円となった結果、医業収支比率は、年度目標(81.6%)を上回る85.6%となった。 また、院内の運営委員会や診療科長連絡会において各目標値の達成状況の確認や情報の共有を行い、経営情報の迅速な把握に努めるとともに、年度計画をもとに部門ごとに具体的な目標を設定し、達成度を評価するなど経営管理を徹底した。	2	4	2	4	法人本部における「経営会議」において、月ごとの経営状況を検証するとともに、各病院においても院内幹部による運営委員会等において細部にわたって経営管理を徹底したことで、目標を大幅に上回る増収となっていることから、「評価4」が妥当である。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
(単位：％)					(単位：％)				
指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院		指 標	こども病院・ 感染症センター		福岡市民病院	
	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値	平成20年度 実績値	平成24年度 目標値		平成20年度 実績値	平成22年度 目標値	平成20年度 実績値	平成22年度 目標値
総収支比率	100.8	101.7	100.3	107.4	総収支比率	100.8	102.3	100.3	101.9
経常収支比率	100.8	102.0	100.7	107.8	経常収支比率	100.8	102.6	100.7	102.2
医業収支比率	96.1	83.7	90.1	93.2	医業収支比率	96.1	81.6	90.1	87.5

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価																										
	ウエ イト	評 価	ウエ イト	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																								
イ 福岡市民病院 近隣の医療機関訪問に重点的に取り組んだことによる紹介患者の増や救急搬送件数の増に伴う新規入院患者の増、SCUの設置による脳卒中センターの機能強化に伴う患者増等により、医業収益は予算を9,100万円余上回る45億2,600万円余となった。一方、営業費用に関しても平成22年度予算の約51億3,700万円に対して、約46億8,700万円と大幅に削減を成し得た。結果として、医業収支比率については、平成22年度の年度計画目標（87.5％）を大きく上回る96.6％となった。 さらなる経営基盤の確立に向け、各診療科長等を対象とした院長ヒアリングを2回実施し、年度計画を踏まえた各科・部の課題・取組方針等について情報の共有化を図り、目標達成に向けた取組みを推進したほか、経費節減に関するヒアリングも2回実施し、時間外勤務の適正化や材料費の削減等、院内を挙げて経費節減に取り組んだ。 目標達成状況の確認については、月次経営報告を踏まえた分析を毎月の経営五役会議で実施するとともに、年度計画の進捗状況についても、毎月の所属長会議でモニタリング資料を提示し、情報の共有化を図りつつ病院全体で経営基盤の確立に努めた。 【目標値】 （単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">こども病院・感 染症センター</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th><th>平成21年度 実績値</th><th>平成22年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>100.0</td><td>106.0</td><td>100.4</td><td>112.2</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>100.3</td><td>106.5</td><td>100.7</td><td>112.4</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>96.3</td><td>85.6</td><td>90.1</td><td>96.6</td></tr></table>	指 標	こども病院・感 染症センター		福岡市民病院		平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	総収支比率	100.0	106.0	100.4	112.2	経常収支比率	100.3	106.5	100.7	112.4	医業収支比率	96.3	85.6	90.1	96.6					
指 標		こども病院・感 染症センター		福岡市民病院																									
	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値																									
総収支比率	100.0	106.0	100.4	112.2																									
経常収支比率	100.3	106.5	100.7	112.4																									
医業収支比率	96.3	85.6	90.1	96.6																									

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 1 新病院に向けた取組み
-----------------	--

中期計画	年度計画
こども病院・感染症センターについては、PFI手法により整備を行う新病院整備等事業を承継し、平成26年3月の開院を目指して確実に事業を推進する。 また、新病院における診療部門の連携を図るための周産期センター化や循環器センター化に向けて検討を進めるとともに、新病院の機能拡充に伴う職員の増員に対応するため、開院に向けて医療従事者を計画的に採用するなど、必要な準備を行う。 なお、新病院の整備にあたっては、平成20年9月の福岡市議会における「新病院の整備に関する決議」の趣旨に配慮する。	こども病院・感染症センターについては、PFI手法により整備を行う新病院整備等事業を承継し、平成26年3月の開院を目指して、落札者の決定、事業契約の締結、並びに医療機器基本計画及び情報システム基本計画の作成等、確実に事業を推進する。 また、新病院における診療部門の連携を図るための周産期センター化等に向けて検討を進める。

中期目標(内容)	こども病院・感染症センターについては、PFI手法により整備を行う新病院整備等事業を承継し、平成26年3月の開院を目指して確実に事業を進めていくこと。 また、新病院の機能拡充に伴う職員の増員に対応するため、開院に向けて医療従事者を計画的に採用するなど、必要な準備を行うこと。 なお、今後の新病院の整備にあたっては、平成20年9月の福岡市議会における「新病院の整備に関する決議」の趣旨を踏まえること。
-----------------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		委員会の評価		
	ウエイト	評価	ウエイト	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
新病院の整備については、PFI手法により整備を行う新病院整備等事業を福岡市から承継し、平成26年3月の開院を目指した入札手続きの実施などに取り組んできた。 ＜入札の状況＞ ・入札公告(5月17日) ・参加資格確認申請書類の受付期間(6月15日～8月31日) ・入札説明書等に関する質問への回答(6月11日～9月10日) 3回にわたり450項目について回答済み ・提案に係る官民対話(7月～10月) ・有識者委員会の開催 新病院整備等を実施する事業者の選定等を行う有識者委員会(外部委員6名、内部委員1名)を開催し、審査基準等の検討を行った。 ・新病院準備委員会の開催 新病院の整備や運営に関する機構内部の検討組織として新病院準備委員会を開催し、入札手続き等の報告や、開院までの作業工程の検討等を行った。 しかしながら、新市長の方針により、平成23年1月に「こども病院移転計画調査委員会」が設置され、整備場所決定のプロセスの合理性、妥当性について、同委員会において客観的かつ専門的な見地から、検証が行われることとなった。 これに伴い、PFI事業の入札手続きについては、事業者から受け付けた提案書を審査する段階であったが、市からの依頼により、調査委員会による検証が行われる期間は、事業者の選定作業を中断することとし、主として、PFIの対象外となる新病院の医療関連運營業務に係る調査・分析及び委託を含めた最適な実施方法の検討など、検証の結果に左右されないものについて取組みを進めることとした。 このため、年度計画で予定していた、落札者の決定、事業契約の締結等の手続きは中断した。 なお、周産期センター化への取組みについては、平成22年8月に現病院において産科(4床)を開設し、平成23年3月には「地域周産期母子医療センター」として認定することが承認された。 今後、新病院開院に向けてさらなる機能強化に取り組むこととしている。	—		—		福岡市側の依頼により、半年以上の中断を余儀なくされたことから、PFIの対象外となる新病院医療関連運營業務に係る調査・分析など、検証の結果に左右されないものについての取組みが進められていたが、当初平成22年度中に行う予定であった事業については、実績に結びついていないため、平成22年度の評価は行わない。 事業中断の影響により、開院時期が遅れることとなるが、1日でも早い開院に向け、事業の進捗を図っていただきたい。

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 2 福岡市民病院の経営改善の推進
-----------------	---

中期計画	年度計画
福岡市民病院については、福岡市病院事業運営審議会から「市民病院は、東区、博多区、糟屋地区における中核的な病院として機能していること及び市の医療政策の総合的な推進の観点、さらに、経営改善の進捗も期待できることから、当面は現在の施設を活用して存続させることが適当である」と考える。この場合、経営の効率化や健全化に向けた取組みに、従来以上の努力を行っていくことが前提となる。なお、繰入金が増大するなど経営改善の達成状況が不十分な場合や、施設老朽化の時期においては、医療環境や財政状況など諸条件を踏まえて、市民病院のあり方について、再度検討する必要があると考えられる。」との答申がなされていることを踏まえ、この中期計画による経営改善の取組みを着実に進め、質の高い医療の提供及び患者サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を図る。	この計画による経営改善の取組みを着実に進め、質の高い医療の提供及び患者サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を図る。

中期目標(内容)	福岡市民病院については、審議会から「市民病院は、東区、博多区、糟屋地区における中核的な病院として機能していること及び市の医療政策の総合的な推進の観点、さらに、経営改善の進捗も期待できることから、当面は現在の施設を活用して存続させることが適当であると考え。この場合、経営の効率化や健全化に向けた取組みに、従来以上の努力を行っていくことが前提となる。なお、繰入金が増大するなど経営改善の達成状況が不十分な場合や、施設老朽化の時期においては、医療環境や財政状況など諸条件を踏まえて、市民病院のあり方について、再度検討する必要があると考えられる。」との答申がなされている。 このことを踏まえ、福岡市民病院については、着実に経営改善を進め、従来以上に経営の効率化を図ること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		委員会の評価		評価の判断理由・ 評価のコメントなど
	ウ エ ィ ト	評 価	ウ エ ィ ト	評 価	
自治体病院に求められる地域医療機関のリーダー的役割を果たすため、地域医療機関との連携に努めるとともに、オープンカンファレンスの開催や実習生の受入れなど、地域の医療従事者全職種にわたり教育研修に積極的に取り組んだ。さらに、地域における中核病院としての機能をより充実させるため、平成22年12月に福岡県に対し地域医療支援病院の指定申請を行い、平成23年3月の福岡県医療審議会において承認された。 質の高い医療の提供の面では、二次救急施設として地域に不足している高度医療を提供するという当院に求められている役割を踏まえ、脳卒中センターの機能強化と増収を図るため、年度計画に基づき、平成22年4月にSCUを開設するとともに、増加している救急患者に対応するため、平成22年12月に救急診察室を拡張し、救急患者受入能力の向上を図っており（救急搬送件数の目標値：1,900件⇒実績：2,227件）、これらの取組みや近隣の医療機関紹介患者の増等により、医業収益は大幅な増収を成し得た。 経営改善の面では、効果的な経営戦略を企画・立案できる事務部門の構築に向けて、経験者採用により、病院経営に関する専門的知識・経験を有する事務職員を5名配置するとともに、各種医療情報の分析と、その結果に基づく効果的な経営戦略の企画・立案能力の強化を図るために経営企画課を新設した。さらに、DPCデータを活用した経営分析を強化して課題の明確化に努め、より効果的な経営改善を実施した。 また、年度計画を踏まえた各診療科の取組方針や課題について情報の共有化を図り、目標達成に向けて効果的な取組みを進めるための院長ヒアリングを強化したほか、経費節減を図るために、外部コンサルタントの導入や院内ヒアリングを実施した結果、大幅な費用縮減を成し得た。	2	4	2	4	大幅な増収、費用縮減が図れており、「評価4」とする。

【医業収支比較】

(単位：百万円)

区分	平成21年度	平成22年度	比較
医業収益 a	3,998	4,526	528
営業費用 b	4,439	4,687	248
差引(a-b)	▲ 441	▲ 161	280
医業収支比率(a/b)	90.1%	96.6%	6.5割増改善

第5 予算（人件費の見積りを含む。），収支計画及び資金計画
※財務諸表及び決算報告書を参照

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2, 0 0 0 百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	1 限度額 2, 0 0 0 百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	1 最大借入高 3 8 6 百万円（平成22年4月） 2 短期借入金の発生理由 当面の支払能力を超える債務（一時的な資金不足）に対応するため借入を行ったが，経営状況の好転により，年度末現在，借入金は発生していない。

第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
なし	なし	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	平成22年度は、剰余を生じたので、平成23年度以降における病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる予定である。

第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画												
1. 施設及び設備に関する計画（平成 22 年度から平成 24 年度まで） (単位：百万円) <table><tr><th>施設及び設備の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>病院施設，医療機器等整備</td><td>2,000</td><td>福岡市長期借入金等</td></tr></table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設，医療機器等整備	2,000	福岡市長期借入金等	1. 施設及び設備に関する計画（平成 22 年度） (単位：百万円) <table><tr><th>施設及び設備の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>病院施設，医療機器等整備</td><td>595</td><td>福岡市長期借入金等</td></tr></table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設，医療機器等整備	595	福岡市長期借入金等
施設及び設備の内容	予定額	財源											
病院施設，医療機器等整備	2,000	福岡市長期借入金等											
施設及び設備の内容	予定額	財源											
病院施設，医療機器等整備	595	福岡市長期借入金等											
2. 人事に関する計画 職員の業績や能力等が処遇面に活かされる人事評価システムの導入を行い，職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また，病院経営に精通した事務部門を構築するため，計画的にプロパー職員を採用するとともに，経理事務等を集中して行う事務センター（仮称）等を設置し，効率的な事務処理体制を整える。 さらに，有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い，正規職員の適正な配置，効率的な組織運営体制の構築を図る。 また，新病院開院に向けた職員の計画的な採用及び育成に取り組む。	2. 人事に関する計画 職員の業績や能力等が処遇面に活かされる人事評価システムの構築に取り組み，職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また，計画的なプロパー職員採用及び有期職員の活用等により，効率的な組織運営体制の構築を図る。												

実 績

1 施設及び設備に関する計画（平成22年度）

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	決定額	財源
病院施設，医療機器等整備	592	福岡市長期借入金等

2 人事に関する計画

職員のモチベーションの維持・向上及び効率的な組織運営体制の構築等を図るため，以下の取組みを行った。

【人事評価制度の構築】

職員の業績や能力・貢献度等を「業績評価」「行動評価」及び「院長評価」の3つで評価し，業績年俸額等へ反映させる人事評価制度を新たに構築するとともに，平成23年4月1日から両病院の医師を対象にスタートさせることとした。

【計画的なプロパー化と有期職員の活用】

民間病院で管理職経験がある者を事務局長及び医事課長（ともに市民病院）として配置するとともに，民間病院等において事務経験がある者及び診療情報管理士として業務経験がある者等を即戦力として採用（こども病院3人，市民病院4人，本部事務局3人）するなど，計画的なプロパー化に取り組んだ。

また，有期職員をこども病院に90名（医師25名，看護師25名，視能訓練士1名，診療放射線技師1名，臨床検査技師3名，臨床工学技士1名，薬剤師2名ほか），市民病院に107名（医師13名，看護師39名，臨床検査技師4名，理学療法士3名，診療放射線技師2名，薬剤師1名ほか）配置し，効率的な組織運営を行った。

【平成23年度事務部門の体制づくり】

病院経営に精通した職員を計画的に採用し，事務部門の強化を図るため，民間病院等において事務経験（医事・経理・人事等，病院情報システム管理，診療情報管理等）があることを受験資格とした職員採用試験を実施するなどにより，経験者を中心に平成23年度の新規採用職員11名（こども病院3名，市民病院5人，本部事務局3人）を確保した。

【各小項目に対するウエイト付けの理由】

大項目	小項目		ウエイト	ウエイト付けの理由	
第1	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置				
1	医療サービス	(1) 良質な医療の実践	こども病院	3	公的病院としての使命を果たす上で最重要事項であるため
			福岡市民病院	3	
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	1	
			福岡市民病院	1	
		(3) 災害時等の対応	両病院	1	
2	医療の質の向上	(1) 診療体制の強化・充実	こども病院	2	公的病院としての使命を果たす上で重要事項であるため
			福岡市民病院	2	
		(2) 病院スタッフの確保と教育・研修	両病院	2	公的病院としての使命を果たす上で重要事項であるため
		(3) 信頼される医療	両病院	1	
3	患者サービス	(1) 患者サービスの向上	両病院	2	公的病院としての使命を果たす上で重要事項であるため
		(2) ボランティアとの共働	こども病院	1	
			福岡市民病院	1	
4	法令遵守と情報公開		両病院	1	

大項目	小項目		ウエイト	ウエイト付けの理由	
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置					
	1 運営組織	両病院	2	効率的・効果的な運営を行う上で重要事項であるため	
	2 収支改善	(1) 増収	こども病院	3 安定的かつ継続的な病院経営を行うための最重要事項であるため	
			福岡市民病院		3
		(2) 費用削減	両病院		3
	3 人事・給与	両病院	2	安定的かつ継続的な病院経営を行うための重要事項であるため	
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置					
	経営基盤の確立	両病院	2	安定的かつ継続的な病院経営を行うための重要事項であるため	
第4 その他業務運営に関する重点事項を達成するためとるべき措置					
	1 新病院に向けた取組み	こども病院	—		
	2 福岡市民病院の経営改善の推進	福岡市民病院	2	公的病院としての使命を果たす上で重要事項であるため	

【用語解説】

1 周産期医療

妊娠後期から新生児期早期まで（妊娠満22週から生後満7日未満まで）の期間の出産に関する時期を一括した概念を周産期といい、この時期に母体、胎児、新生児を総合的に管理して母と子の健康を守るための医療をいう。

2 地域周産期母子医療センター

周産期母子医療センターには、総合型と地域型の2つの種類がある。総合型は、相当規模の母体・胎児集中治療管理室を含む産科病棟及び新生児集中治療管理室を含む新生児病棟を備え、常時の母体及び新生児搬送受入体制を有し、母体又は胎児・新生児におけるリスクの高い分娩（ハイリスク分娩）に対する医療及び高度な新生児医療等の周産期医療を行うことができる医療施設であり、地域型は、産科及び小児科等を備えて周産期に係る比較的高度な医療を行うことができる医療施設をいう。

3 医療計画

医療法の定めに基づき、厚生労働大臣が定めた医療提供体制の確保に関する基本方針に即し、都道府県がそれぞれの地域の实情に応じて定めた計画。平成18年の医療計画制度の見直しに伴い、4つの疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）と5つの事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児救急を含む小児医療）に関する医療連携体制の構築、目標の設定などが求められるようになった。

4 SCU（脳卒中ケアユニット）

重篤な脳卒中患者に対し、高度・集中的な診療を行う設備。脳卒中治療の専門知識を持つ医師、看護師、放射線技師、理学療法士らでつくるチームが対応する。

5 オープンカンファレンス

病院主催の勉強会で、病院内職員に限らず、医師あるいは看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師などの区別なく地域の医療者その他の参加者を募り、最近の考え方、研究、あるいは診療内容等についての講演や発表を中心に、自由に話し合い、検討することにより共通の理解を深め、地域全体の医療レベルの向上に寄与しようとするもの。

6 地域医療支援病院

かかりつけ医からの紹介患者に対する医療提供や地域における救急医療の確保、医療従事者に対する研修、医療機器等の共同利用の実施等を通して、かかりつけ医等を支援する病院をいう。

7 クリニカルパス

医師、看護師、コメディカルスタッフ（＝医療チーム）が、共同で実践する治療・検査・看護・処置・指導などの治療行動計画を時間軸に沿ってまとめたもの。

8 インフォームド・コンセント

医療側は診断と治療のねらいや内容を十分に説明し、主体となる患者側はその説明内容を納得して治療を受けること。

9 セカンド・オピニオン

患者が検査や治療を受けるにあたり、主治医以外の医師に求めた意見、または意見を求める行為のこと。

10 病院機能評価

財団法人日本医療機能評価機構が行う病院の評価事業。「患者の権利と医療の質および安全の確保」, 「療養環境と患者サービス」などについて, 病院運営の専門家が評価する。

受審の準備を進めることで, 医療の質の向上やサービス改善が進むとともに, 第三者の評価により現状が客観的に把握でき, 改善すべき点が明確にされるなどの効果がある。

11 治験

製薬会社で開発中の薬を患者等に使用してもらい, 有効性や安全性を確認する試験をいう。

12 小児入院医療管理料 1

こども病院など, 地域の小児医療の中核的役割を果たす医療機関においては, 現行の診療報酬制度で規定されている要件以上の手厚い人員配置により, 高い水準の医療が提供されている。こうした医療機関について, 診療報酬上さらに高い評価を行うもので, 1 (1日につき4,500点) から5 (同2,100点) まで5段階で規定されている。

13 7:1看護

入院患者7名につき看護師1名を配置する体制で, 診療報酬制度上の入院基本料は看護体制が手厚いほど多くなる。一般病棟では, 15名 (入院基本料が1日につき934点), 13名 (同1,092点), 10名 (同1,300点), 7名 (同1,555点) の4区分があり, 7名の区分は平成18年4月の診療報酬改定で設定されたものである。

14 ドクターカー

医師や看護師が同乗することで, 救急現場あるいは搬送時における医療行為を可能にする自動車。救急患者の救命率を高めることが可能であり, 欧米では広く普及している。

15 服薬指導

薬物の使用に当たっては適切な使用が重要であり, 医師の意図と異なる服用を行った場合には薬効が過剰あるいは不十分となり, 病態を悪化させる可能性があるため, 薬剤師が患者に対して処方薬の薬効と服薬方法, 服薬の意義について分かりやすい言葉で説明し, 薬物療法に対する理解を促進するもの。

16 栄養食事指導

患者に対し, 栄養状態の改善のための栄養や食生活に関する指導を行うものであり, 疾病の進展の防止, 回復・予後などの過程における治療の基礎的な役割を担うもの。

17 医療ソーシャルワーカー

保健医療分野におけ社会福祉士であり, 病院において「疾病を有する患者等が, 地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう, 社会福祉の立場から, 患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し, 社会復帰の促進を図る」専門職を指す。

18 認定看護師

日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し, ある特定の看護分野 (21分野) において, 熟練した看護技術と知識を用いて, 水準の高い看護実践ができるとみとめられた看護師のこと。

19 ジェネリック医薬品

新薬の独占的販売期間（有効性・安全性を検証する再審査期間及び特許期間）が終了した後に発売される、新薬と同じ有効成分で効能・効果、用法・用量が同一であり、新薬に比べて低価格な医薬品をいう。

20 PFI手法

施設整備と公共サービスの提供を包括的に委託する手法。一般的に設計から建設、維持管理までを一貫して委託することにより、施設の使いやすさが向上するとともに、ライフサイクルコストの縮減が図れる。また、民間的な発想を取り入れることにより公共サービスの向上を図ることができる。

21 小児救急電話相談事業

保護者が夜間の急な子どもの病気にどう対処したらよいのか、病院の診療を受けたほうがよいのかなど、迷ったときに、小児科医師・看護師へ電話による相談ができるもの。

この事業は全国同一短縮番号（＃８０００）をプッシュすることにより、居住地の都道府県の相談窓口に自動転送され、小児科医師・看護師から患者の症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けることができる。

22 第一種・第二種感染症指定医療機関

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（いわゆる感染症法）による公費負担患者の入院医療を担当する医療機関をいい、第一種感染症指定医療機関はエボラ出血熱やペストなどが分類されている一類感染症患者を、第二種感染症指定医療機関はジフテリアや重症急性呼吸器症候群（SARS）などが分類されている二類感染症患者を担当する。

23 脳卒中地域連携パス

急性期における専門病院での高度医療から回復期におけるリハビリ治療、地域生活期におけるかかりつけ医等の治療まで、各医療機関がそれぞれの役割を適切に果たし、患者に一貫した医療を提供するため、治療目標や患者の問題点などの情報を共有する共通の診療計画書のことで、急性期から地域生活期まで一貫して使われる。地域連携パスを使うと、各医療機関で医療の質が高まるだけでなく、医療機関の間の信頼関係や意思疎通が深まることが期待でき、また、患者や家族にとっても、治療方針を理解しやすくなり、一貫した方針のもとで安心して治療に臨めるメリットがある。

24 がん治療における外来化学療法

入院せずに通院によって抗がん剤治療を行うこと。患者の精神的・経済的負担の軽減を図ることができる。

25 栄養サポートチーム

病態管理をする医師、患者のそばにいて一番患者の状態を把握している看護師、必要量や摂取量を評価し食事を調整提供する管理栄養士、薬の副作用・薬効・点滴などの管理をする薬剤師などの各専門スタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い最良の方法で患者に対する栄養支援を行うチームをいう。

26 プロパー職員

当機構の職員のうち、福岡市から派遣された職員ではなく、機構で採用した正規職員をいう。

27 D P C

入院診療について、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日当たりの診断群分類点数をもとに医療費を計算する定額払いの会計方式をいう。

なお、傷病名、手術及び措置などの内容をより正確に診断群分類に反映するためのチェックをD P Cコーディングチェックという。

28 病棟保育士

医師や看護師と連携し、病院での「保育看護」の保育部分を担当する保育士のことで、入院している子供に対して、食事や排泄の世話、着替えなどの通常の保育業務を行うほか、一緒に遊ぶことなどを通じて生活面をサポートする役割を担うもの。

29 S P Dシステム

物品の供給、在庫、加工などの物流管理を中央化及び外注化することにより、診療現場の物品を柔軟かつ円滑に管理する方法をいう。

30 新薬創出、適応外薬解消等促進加算

喫緊の課題となっている適応外薬等問題への対応を行うとともに、革新的な新薬の創出を促進するため、後発品が上市されていない新薬のうち一定の要件を満たすものについて市場実勢価格に基づく薬価の引下げを一時的に猶予すること。

【各指標の計算式】

項 目	計 算 式
1日当たり入院患者数	延べ入院患者数／日数
平均在院日数	延べ入院患者数（退院日除く）／（（新入院患者数＋退院患者数）／2）
1人1日当たり入院単価	入院診療収入／延べ入院患者数
1日当たり外来患者数	延べ外来患者数／診療日数
1人1日当たり外来単価	外来診療収入／延べ外来患者数
紹介率	（紹介患者数＋救急患者数）／初診患者数×100
逆紹介率	他の医療機関への紹介患者数／初診患者数×100
常勤看護師離職率	年度退職者数／（（年度当初在職者数＋年度末在職者数）／2）×100
クリニカルパス適用率	クリニカルパスの適用患者数／入院患者数×100
病床利用率	1日当たり入院患者数／病床数×100
診療報酬請求査定減率	査定減点数／診療報酬請求点数×100
材料費対医業収益比率	材料費／医業収益×100
薬品費対医業収益比率	薬品費／医業収益×100
診療材料費対医業収益比率	診療材料費／医業収益×100
委託費対医業収益比率	委託費／医業収益×100
ジェネリック医薬品導入率 （品目ベース）	ジェネリック医薬品採用品目数／採用品目数×100
病院職員の 給与費対医業収益比率	病院職員の給与費／医業収益×100
総収支比率	総収益／総費用×100
経常収支比率	経常収益／経常費用×100
医業収支比率	医業収益／営業費用×100

※ 収益及び費用は、消費税及び地方消費税の処理を税抜き方式で行った数字を使用。

平成22年11月10日

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会決定

地方独立行政法人法第28条第1項及び第30条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。
- (5) 評価結果を法人に通知する場合は、法人に対し、意見申立ての機会を付与するものとする。

2 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度及び中期目標期間終了後3月以内に、当該期間における業務の実績を明らかにした報告書（以下「業務実績報告書」という。）を評価委員会に提出する。その際、各事業年度の業務実績報告書においては、年度計画に記載されている小項目などについて法人が行った自己評価をあわせて記載する。

(2) 評価の実施

評価委員会は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、総合的な評価を行う。評価は、各事業年度終了時に実施する「年度評価」と、中期目標期間終了時に実施する「中期目標期間評価」とし、それぞれ「項目別評価」と「全体評価」により行うものとする。

① 年度評価

中期計画及び年度計画に記載されている小項目、大項目及び全体について評価を行う。

評価に当たっては、小項目について病院ごとの実績がわかるように工夫し、病院の自己点検に基づき、法人としての自己評価を行い、これに基づき評価委員会にお

いて確認及び分析し、「項目別評価」（小項目及び大項目）を行い、「項目別評価」の結果を踏まえつつ、中期計画、年度計画の進捗状況全体について総合的に評価を行う。

なお、「年度評価」に係る評価基準等の詳細については、別途実施要領で定めるものとする。

② 中期目標期間評価

各「年度評価」の評価結果も踏まえつつ、中期計画に記載されている大項目及び全体について評価を行う。

評価に当たっては、当該期間における中期目標の達成状況について、当該期間中の「年度評価」の結果を踏まえつつ、評価委員会において確認及び分析し、「項目別評価」（大項目）を行う。さらに、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標期間における業務実績全体について総合的に評価する。

なお、「中期目標期間評価」に係る評価基準等の詳細については、別途実施要領で定めるものとする。

3 評価結果の活用

- (1) 法人は、評価結果や勧告を受けて、法人として取り組む事項を明確にし、改善に取り組むとともに、その状況を評価委員会に報告する。
- (2) 法人の業務継続の必要性及び組織のあり方等に関する検討、次期中期目標の策定及び次期中期計画の作成に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標期間の各年度の評価結果を踏まえるものとする。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

平成22年11月10日

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会決定

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度に係る業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施するにあたっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成22年11月10日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 項目別評価の具体的方法

「項目別評価」は、原則として当該年度の年度計画に定めた小項目ごとに、その実施状況について法人が自己評価を行う。さらに評価委員会においても評価を行った上で、年度計画に掲げる「第1～第4」の項目（大項目）について評価を行う。

なお、法人においては、年度計画の小項目を必要に応じて細分化することができるものとする。

(1) 項目別評価【法人による小項目自己評価】

法人において、小項目ごとの進捗について、実施状況をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由を記載した業務実績報告書（別紙のとおり）を作成する。法人は、各項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウエイトを設定するとともにその理由を付記するものとする。

なお、業務実績報告書には、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価【評価委員会による小項目評価】

評価委員会において、法人の自己評価及び法人が設定する小項目、ウエイトなどを総合的に検証し、小項目ごとの進捗状況について、法人の自己評価と同様に「1～5」の5段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数

値と当該実績値の比較だけでなく、計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかも含め、総合的に判断するものとする。

評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合は、評価委員会が評価の判断理由等を示す。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

(3) 項目別評価【評価委員会による大項目評価】

評価委員会において、小項目評価の結果、特記事項の記載内容などを考慮し、大項目ごとに中期計画の実現に向けた業務の進捗状況について、次の5段階による評価を行い、考慮した事項及びそのように判断した理由も記載する。

評価S：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある

(評価委員会が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる

(すべての小項目が3～5)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる

(3～5の小項目の割合がおおむね9割以上)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている

(3～5の小項目の割合がおおむね9割未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある

(評価委員会が特に認める場合)

なお、小項目評価結果の割合を算定するにあたっては、ウエイトを考慮した小項目数によるものとする。

2. 全体評価の具体的方法

評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、法人化を契機とした病院改革の取り組み(法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など)を積極的に評価するものとする。

その評価にあたり、項目別の結果とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について評価結果報告書(別紙のとおり)に記載するものとする。

また、評価の中で改善すべき事項については評価委員会の意見として評価結果報告書に記載するとともに、特に重大な改善事項については勧告を行うものとする。